

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	平成27年2月6日提出
【計算期間】	第17特定期間(自 平成26年5月13日至 平成26年11月10日)
【ファンド名】	香川県応援ファンド
【発行者名】	岡三アセットマネジメント株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 金井 政則
【本店の所在の場所】	東京都中央区八重洲二丁目 8 番 1 号
【事務連絡者氏名】	田中 利幸
【連絡場所】	東京都中央区八重洲二丁目 8 番 1 号
【電話番号】	03-3516-1432
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

## 第一部【ファンド情報】

## 第1【ファンドの状況】

## 1【ファンドの性格】

## (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

## ファンドの目的

ファンドは、香川県関連株マザーファンド、内外債券マザーファンド、Jリート・マザーファンドの各受益証券を主要投資対象とし、各マザーファンドを通じて、わが国の株式、内外の債券、およびわが国の不動産投資信託証券に投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

## 信託金の限度額

委託会社は、受託会社と合意のうえ、金2,000億円を限度として信託金を追加することができます。委託会社は、受託会社と合意のうえ、この限度額を変更することができます。

## ファンドの商品分類

ファンドは、一般社団法人投資信託協会が定める商品分類において、「追加型投信 / 内外 / 資産複合」に分類されます。

ファンドの商品分類は、以下のとおりです。

商品分類表（ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。）

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型投信	国内	株式
	海外	債券
		不動産投信
<b>追加型投信</b>	<b>内外</b>	その他資産 ( )
		<b>資産複合</b>

属性区分表（ファンドが該当する属性区分を網掛け表示しています。）

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ

株式 一般 大型株 中小型株	年1回	<b>グローバル (日本を含む)</b>		
	年2回			
	年4回	日本		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	<b>年6回 (隔月)</b>	北米	<b>ファミリーファン ド</b>	あり ( )
	年12回 (毎月)	欧州		
	日々	アジア		
不動産投信		オセアニア		<b>なし</b>
<b>その他資産 (投資信託証券(資産複合(株式・一般、債券・公債、不動産投信)) (資産配分固定型))</b>	その他 ( )	中南米	ファンド・オブ・ファンズ	
		アフリカ		
		中近東 (中東)		
		エマージング		
資産複合 ( ) 資産配分固定型 資産配分変更型				

ファンドは、マザーファンドの受益証券（投資信託証券）を主要投資対象とするファミリーファンド方式で運用を行うため、属性区分におけるファンドの投資対象資産は、「その他資産（投資信託証券）」となり、商品分類における投資対象資産（収益の源泉）である「資産複合」とは分類・区分が異なります。

属性区分表に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

商品分類および属性区分の定義につきましては、下記をご覧ください。なお、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<http://www.toushin.or.jp/>）でもご覧いただけます。

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類および属性区分は以下のとおりです。

#### [ 商品分類表の定義 ]

##### 《単位型投信・追加型投信の区分》

- (1) 単位型投信...当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われないファンドをいう。
- (2) 追加型投信...一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

##### 《投資対象地域による区分》

- (1) 国内...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 海外...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 内外...目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

##### 《投資対象資産による区分》

- (1) 株式...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。

- (2) 債券...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 不動産投信(リート)...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4) その他資産...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記(1)から(3)に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な組入資産そのものの名称記載も可とする。
- (5) 資産複合...目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

#### 《独立した区分》

- (1) MMF(マネー・マネージメント・ファンド)...「MMF等の運営に関する規則」に定めるMMFをいう。
- (2) MRF(マネー・リザーブ・ファンド)...「MMF等の運営に関する規則」に定めるMRFをいう。
- (3) ETF...投資信託及び投資法人に関する法律施行令(平成12年政令480号)第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法(昭和32年法律第26号)第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

#### 《補足分類》

- (1) インデックス型...目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 特殊型...目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、[属性区分表の定義]で《特殊型》の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外の小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

#### [属性区分表の定義]

##### 《投資対象資産による属性区分》

###### (1) 株式

一般・・・次の大型株、中小型株属性にあてはまらない全てのものをいう。

大型株・・・目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。

中小型株・・・目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

###### (2) 債券

一般・・・次の国債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいう。

公債・・・目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債(地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。)に主として投資する旨の記載があるものをいう。

社債・・・目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。

その他債券・・・目論見書又は投資信託約款において、国債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。

格付等クレジットによる属性・・・目論見書又は投資信託約款において、上記からの「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記からに掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

(3) 不動産投信・・・これ以上の詳細な分類は行わないものとする。

(4) その他資産・・・組入れている資産を記載するものとする。

(5) 資産複合・・・以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。

資産配分固定型・・・目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

資産配分変更型・・・目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるものもしくは固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

#### 《決算頻度による属性区分》

(1) 年1回・・・目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。

(2) 年2回・・・目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。

(3) 年4回・・・目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。

(4) 年6回(隔月)・・・目論見書又は投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいう。

(5) 年12回(毎月)・・・目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。

(6) 日々・・・目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。

(7) その他・・・上記属性にあてはまらない全てのものをいう。

#### 《投資対象地域による属性区分(重複使用可能)》

(1) グローバル・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。

(2) 日本・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(3) 北米・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(4) 欧州・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(5) アジア・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(6) オセアニア・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(7) 中南米・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(8) アフリカ・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(9) 中近東(中東)・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

(10) エマージング・・・目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域(新興成長国(地域))の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

#### 《投資形態による属性区分》

(1) ファミリーファンド・・・目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズ)のみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。

(2) ファンド・オブ・ファンズ・・・「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

## 《為替ヘッジによる属性区分》

- (1) 為替ヘッジあり・・・目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。
- (2) 為替ヘッジなし・・・目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

## 《インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分》

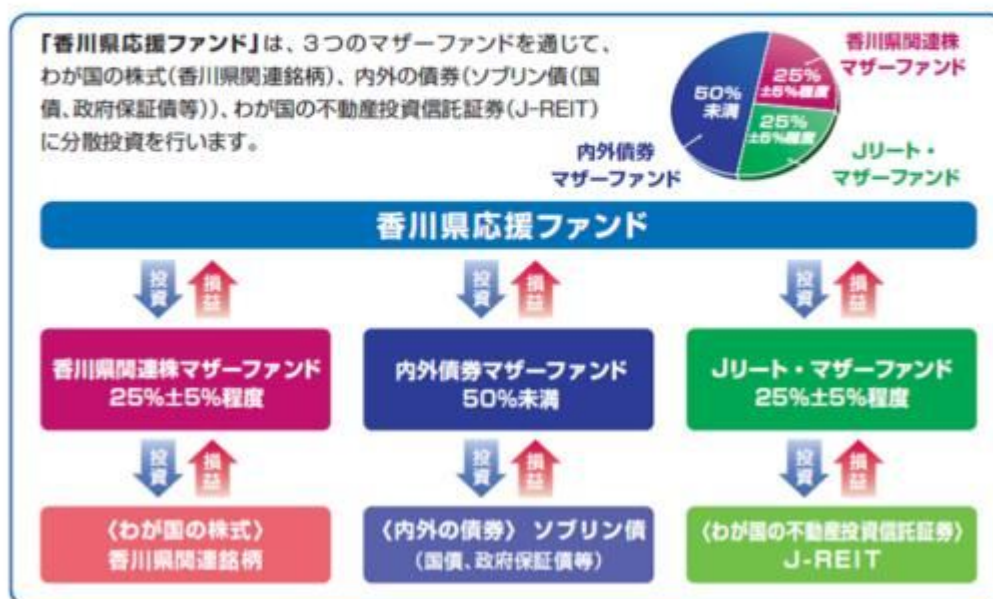
- (1) 日経225
- (2) TOPIX
- (3) その他の指数・・・上記指数にあてはまらない全てのものをいう。

## 《特殊型》

- (1) ブル・ベア型...目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動（一定倍の連動若しくは逆連動を含む。）を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2) 条件付運用型...目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資またはその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果（基準価額、償還価額、収益分配金等）や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。
- (3) ロング・ショート型 / 絶対収益追求型...目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。
- (4) その他型...目論見書又は投資信託約款において、上記（1）から（3）に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

## 《ファンドの特色》

- 香川県関連株マザーファンド、内外債券マザーファンド、Jリート・マザーファンドの各受益証券を主要投資対象とし、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。
- 各マザーファンドの受益証券への資産配分は、投資信託財産の純資産総額に対して、以下の比率を基本投資割合とします。



- 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

内外債券マザーファンドは、日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債、政府保証債等）に投資を行い、原則として、為替ヘッジを行いません。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

- 香川県の社会福祉向上のため、信託報酬から寄附を行います。

寄附は、委託会社が受取る信託報酬から行います。なお、委託会社、販売会社、受託会社が受取る信託報酬は、寄附を行うことを考慮して決定しております。

### 香川県の社会福祉向上のため、信託報酬から寄附を行います。

寄附の金額は、ファンドの日々の純資産総額に対し年率0.15%とします。寄附の方法等につきましては、委託会社が、香川県庁との協議により決定します。寄附の具体的な内容につきましては、運用報告書等を通じて、受益者のみなさまにご報告します。



### <香川県関連株マザーファンド>

- わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とし、投資信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。
- わが国の金融商品取引所上場株式のうち、香川県に本社または本店がある企業（これに準ずるものを含みます。）、および香川県に工場、店舗等があるなど、香川県の発展と共に成長が期待される企業や香川県に関わりが深い企業等（子会社等を含む場合があります。）の株式に投資します。
- ポートフォリオの構築にあたっては、財務内容等を考慮のうえ、以下の戦略Ⅰおよび戦略Ⅱを組合せて銘柄を選定します。なお、戦略Ⅰおよび戦略Ⅱへの投資比率は、各戦略によって選定された銘柄群の株式時価総額、流動性等を考慮して決定するものとし、設定当初は、戦略Ⅰを20%程度、戦略Ⅱを80%程度とします。

#### 戦略Ⅰ

香川県に本社または本店がある企業（これに準ずるものを含みます。）を投資対象とし、株式時価総額を勘案して、ポートフォリオを構築します。

#### 戦略Ⅱ

香川県に工場、店舗等（子会社等を含む場合があります。）がある企業を投資対象とし、株式時価総額上位15銘柄程度に加え、配当利回り上位15銘柄程度、計30銘柄程度を選定し、株式時価総額を勘案して、ポートフォリオを構築します。

- 組入後の運用にあたっては、買い持ち戦略を基本とし、投資比率、組入銘柄の見直しは、原則として半年毎に行います。
- 株式の組入比率は、高位を保つことを基本とします。
- 株式以外の資産への投資割合は、原則として、投資信託財産総額の50%以下とします。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。



## <内外債券マザーファンド>

- 日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債、政府保証債等）を主要投資対象とし、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。

### ソブリン債とは

各国政府や政府機関が発行する債券の総称で、自国通貨建・外貨建があります。また、世界銀行やアジア開発銀行など国際機関が発行する債券もこれに含まれます。

### 主な投資対象国

アメリカ、カナダ、オーストラリア、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、日本

※上記すべての国に投資するとは限りません。また、投資対象国は今後変更される場合があります。

- シティ世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指して積極的な運用（アクティブ運用）を行います。

※シティ世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）はCitigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。

- マクロ分析や為替・金利予測及びイールドカーブ分析に基づき、国別投資比率やデュレーションの決定及び調整を行い、アクティブに超過収益の獲得を目指します。また、相対価値分析、需給要因分析、テクニカル分析に基づく複数の付加価値戦略を組み合わせることで、ポートフォリオの収益力向上とリスク軽減に努めます。

### デュレーションとは

デュレーションは、金利変動に伴う債券価格の変動性を示す指標として用いられ、一般的にこの値が大きい程、金利変動に伴う債券価格の変動リスクが大きくなります。また、対象債券のクーポンが同じであれば、残存期間が長いほどデュレーションは長くなります。

- 債券の組入比率は、高位を保つことを基本とします。
- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。



## <Jリート・マザーファンド>

- わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます。）不動産投資信託証券に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。



- 運用にあたっては、株式会社三井住友トラスト基礎研究所から不動産市場全体とJ-REITにかかる調査・分析情報等の助言を受けます。

### 株式会社三井住友トラスト基礎研究所

主な業務内容は、以下のとおりです。

- 不動産の投資適格性評価、不動産投資市場の将来予測など不動産投資に関する調査、研究の受託およびコンサルティング
- 住宅・オフィス・商業施設など、主要不動産の需給動向や市場予測、不動産市場に関する調査、研究の受託およびコンサルティング
- J-REIT等の不動産を原資産とする有価証券に係る投資助言業務の受託

※投資助言者、投資助言の内容、投資助言の有無については、変更する場合があります。

- 不動産投資信託証券の組入比率は、原則として高位に保つことを基本とします。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

## ファンドの目的・特色 【収益分配金に関する留意事項】

- ファンドの分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われます。分配金が支払われると、その金額相当分、ファンドの純資産が減少するため、基準価額は下がります。

※分配金の有無や金額は確定したものではありません。

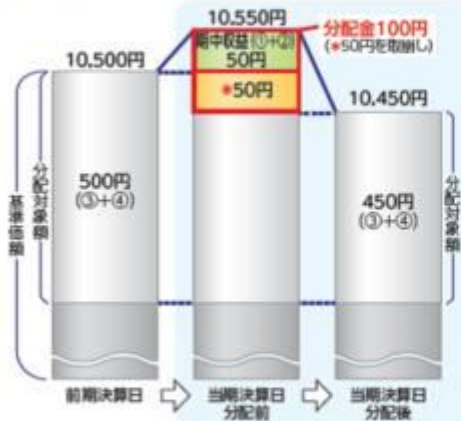
ファンドで分配金が支払われるイメージ



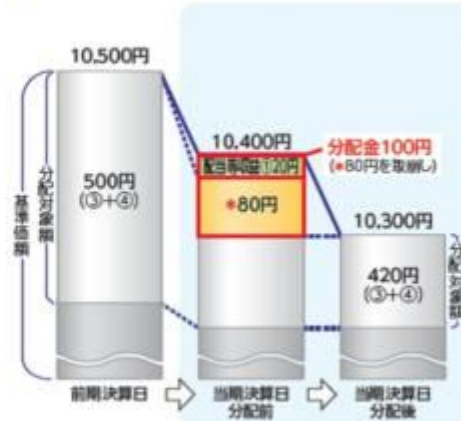
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）の中から支払われる場合と、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があります。計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

#### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合のイメージ

##### ■ 前期決算日から基準価額が上昇した場合



##### ■ 前期決算日から基準価額が下落した場合



※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額(①経費控除後の配当等収益 ②経費控除後の評価益を含む売買益 ③分配準備積立金 ④収益調整金)から支払われます。

分配準備積立金：期中収益(①+②)のうち、決算時に分配に充てずファンド内部に留保した収益を積み立てたもので、次期以降の分配金に充てることができます。

収益調整金：追加購入により、既存投資者の分配対象額が希薄化しないようにするために設けられたものです。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

##### ■ 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



##### ■ 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ(特別分配金)減少します。

(注)普通分配金に対する課税については、後記「手続・手数料等」の「ファンドの費用・税金」をご参照下さい。

## (2) 【ファンドの沿革】

平成18年5月19日 投資信託契約締結、設定、運用開始

平成19年1月 4日 投資信託振替制度へ移行

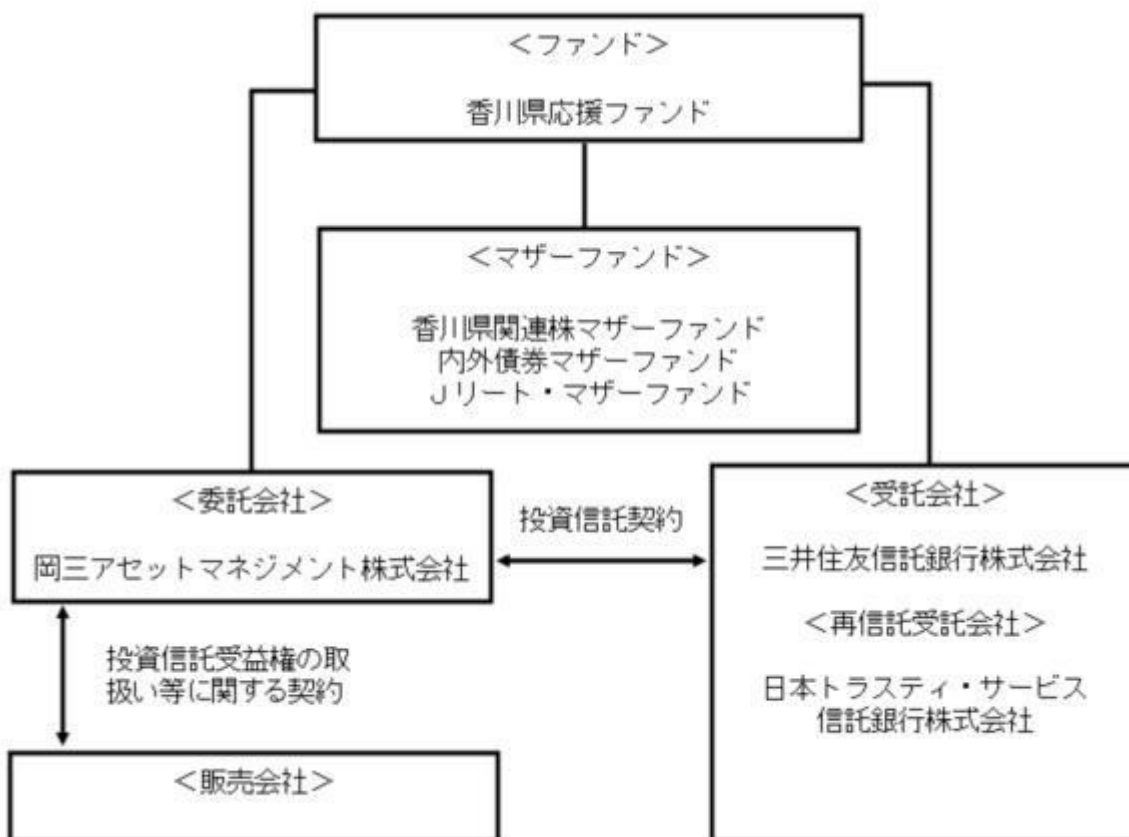
## (3) 【ファンドの仕組み】

### ファミリーファンド方式

ファミリーファンド方式とは、投資家から投資された資金をベビーファンドとしてまとめ、その資金を主としてマザーファンドに投資することにより、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。



### ファンドの関係法人とその役割



関係法人	役割
委託会社	投資信託契約に基づき、投資信託財産の運用指図、投資信託財産の計算（基準価額の計算）、収益分配金、償還金及び解約金の支払い、投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）および運用報告書の作成・交付等を行います。
受託会社	投資信託契約に基づき、投資信託財産の保管・管理・計算、委託会社の指図に基づく投資信託財産の処分等を行います。
再信託受託会社	受託会社との再信託契約に基づき、所定の事務を行います。

販売会社	委託会社との間に締結した「投資信託受益権の取扱い等に関する契約」に基づき、受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 委託会社の概況(平成26年11月末日現在)

資本金  
10億円

#### 委託会社の沿革

昭和39年10月 6日	「日本投信委託株式会社」設立
昭和62年 6月27日	第三者割当増資の実施(新資本金 4億5,000万円)
平成 2年 6月30日	第三者割当増資の実施(新資本金 10億円)
平成20年 4月 1日	岡三投資顧問株式会社と合併し、商号を「岡三アセットマネジメント株式会社」に変更

#### 大株主の状況

名 称	住 所	持株数	持株比率
岡三興業株式会社	東京都中央区日本橋小網町9番9号	253,400株	30.71%
株式会社岡三証券グループ	東京都中央区日本橋1丁目17番6号	174,801株	21.19%
株式会社りそな銀行	大阪府中央区備後町2丁目2番1号	41,150株	4.99%
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	41,150株	4.99%
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	41,149株	4.99%

## 2【投資方針】

### (1)【投資方針】

#### 基本方針

ファンドは、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

#### 運用方法

##### a 投資対象

香川県関連株マザーファンド、内外債券マザーファンド、およびJリート・マザーファンドの各受益証券を主要投資対象とします。

##### b 投資態度

イ．香川県関連株マザーファンド、内外債券マザーファンド、Jリート・マザーファンドの各受益証券を主要投資対象とし、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

ロ．各マザーファンドの受益証券への投資を通じて、わが国の株式、内外の債券、およびわが国の不動産投資信託証券に投資します。

ハ．各マザーファンドの受益証券への資産配分は、投資信託財産の純資産総額に対して、以下の比率を基本投資割合とします。

香川県関連株マザーファンドの受益証券	・・・・・・	25% ± 5%程度
内外債券マザーファンドの受益証券	・・・・・・	50%未満
・・・・・・		
Jリート・マザーファンドの受益証券	・・・・・・	25% ± 5%程度

ニ．実質組入外貨建資産（各マザーファンドの投資信託財産に属する外貨建資産（外国通貨表示の有価証券、預金、その他の資産をいいます。）の時価総額のうち、この投資信託財産に属するとみなした額をいいます。）については、原則として為替ヘッジを行いません。

ホ．資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

ファンドは、各マザーファンドの投資対象資産に着目し、基本投資割合に従って、各マザーファンドの組入比率を決定します。

## (2)【投資対象】

### 投資の対象とする資産の種類

ファンドにおいて、投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

- a 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
  - イ．有価証券
  - ロ．金銭債権
  - ハ．約束手形
- b 次に掲げる特定資産以外の資産
  - イ．為替手形

### 運用の指図範囲

#### a 有価証券

委託会社は、信託金を、主として岡三アセットマネジメント株式会社を委託会社とし、三井住友信託銀行株式会社を受託会社として締結された香川県関連株マザーファンド、内外債券マザーファンド、Jリート・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）の各受益証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除き、本邦通貨表示のものに限ります。）に投資することを指図します。

イ．コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等

ロ．外国または外国の者の発行する証券または証書で上記イ.の証券の性質を有するもの

ハ．国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます。）

ニ．指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

#### b 金融商品

委託会社は、信託金を、上記の有価証券のほか、以下の金融商品（金融商品取引法第2条第



2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。

イ．預金

ロ．指定金銭信託（金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。）

ハ．コール・ローン

ニ．手形割引市場において売買される手形

c 特別な場合の運用指図

ファンドの設定、一部解約、償還および投資環境の変動への対応で、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を、上記の金融商品により運用することの指図ができます。

投資対象とする各マザーファンドの委託会社名、基本方針、投資対象、投資態度等の詳細は、後述の「投資対象とするマザーファンドの概要」をご参照下さい。

投資対象とするマザーファンドの概要

1. 香川県関連株マザーファンド

委託会社	岡三アセットマネジメント株式会社
基本方針	投資信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。
投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とします。
投資態度	<p>わが国の金融商品取引所上場株式を主要投資対象とし、投資信託財産の成長を図ることを目標に運用を行います。</p> <p>わが国の金融商品取引所上場株式のうち、香川県に本社または本店がある企業（これに準ずるものを含みます。）、および香川県に工場、店舗等があるなど、香川県の発展と共に成長が期待される企業や香川県に関わりが深い企業等（子会社等を含む場合があります。）の株式に投資します。</p> <p>ポートフォリオの構築にあたっては、財務内容等を考慮のうえ、以下の戦略 および戦略 を組合せて銘柄を選定します。なお、戦略 および戦略 への投資比率は、各戦略によって選定された銘柄群の株式時価総額、流動性等を考慮して決定するものとし、設定当初は、戦略 を20%程度、戦略 を80%程度とします。</p> <p>戦略 ：香川県に本社または本店がある企業（これに準ずるものを含みます。）を投資対象とし、株式時価総額を勘案して、ポートフォリオを構築します。</p> <p>戦略 ：香川県に工場、店舗等（子会社等を含む場合があります。）がある企業を投資対象とし、株式時価総額上位15銘柄程度に加え、配当利回り上位15銘柄程度、計30銘柄程度を選定し、株式時価総額を勘案して、ポートフォリオを構築します。</p> <p>組入後の運用にあたっては、買い持ち戦略を基本とし、投資比率、組入銘柄の見直しは、原則として半年毎に行います。</p> <p>株式の組入比率は、高位を保つことを基本とします。</p> <p>株式以外の資産への投資割合は、原則として、投資信託財産総額の50%以下とします。</p> <p>資金動向、市況動向、投資対象企業数の状況等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>



投資制限	<p>株式への投資割合には制限を設けません。</p> <p>外貨建資産への投資は行いません。</p> <p>新株引受権証券および新株予約権証券への投資割合は、取得時において、投資信託財産の純資産総額の20%以内とします。</p> <p>投資信託証券への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以内とします。</p> <p>投資する株式、新株引受権証券および新株予約権証券は、取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式、新株引受権証券および新株予約権証券については、この限りではありません。ただし、上場予定の株式、新株引受権証券および新株予約権証券で目論見書等において上場されることが確認できるものについては投資することができます。</p> <p>信用取引により株券を売付けることができます。</p> <p>デリバティブ取引（わが国の取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引、わが国の取引所における金利にかかる先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引、スワップ取引、金利先渡取引）を行うことができます。</p> <p>デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が投資信託財産の純資産総額を超えないものとします。</p> <p>投資信託財産に属する株式および公社債を貸付けることができます。</p> <p>「投資信託及び投資法人に関する法律」並びに関係法令に基づく投資制限</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委託会社は、投資信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該投資信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。</li> <li>・ 委託会社は、同一の法人の発行する株式について、委託会社が運用の指図を行う全ての委託者指図型投資信託につき投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合において、当該株式を投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図することはできません。</li> </ul>
決算日、分配方針	<p>毎年5月10日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。</p> <p>投資信託財産から生ずる利益は、信託終了時まで投資信託財産中に留保し、期中には分配を行いません。</p>
申込手数料	ありません。
解約手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
信託報酬	ありません。
その他費用	<p>主に、以下の費用を投資信託財産から支弁します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組入有価証券の売買委託手数料</li> <li>・ 先物・オプション取引等の売買委託手数料</li> <li>・ 投資信託財産に関する租税</li> <li>・ 信託事務の処理に要する諸費用</li> <li>・ 受託会社の立替えた立替金の利息</li> </ul>

## 2. 内外債券マザーファンド

委託会社	岡三アセットマネジメント株式会社
基本方針	日本を含む主要先進各国のソブリン債(国債、政府保証債等)に投資し、信託財産の成長を目指して運用を行います。
投資対象	日本を含む主要先進各国のソブリン債(国債、政府保証債等)を主要投資対象とします。
投資態度	<p>日本を含む主要先進各国のソブリン債(国債、政府保証債等)を主要投資対象とし、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。</p> <p>シティ世界国債インデックス(ヘッジなし・円ベース)をベンチマークとし、中長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指して積極的な運用(アクティブ運用)を行います。</p> <p>マクロ分析や為替・金利予測及びイールドカーブ分析に基づき、国別投資比率やデュレーションの決定及び調整を行い、アクティブに超過収益の獲得を目指します。また、相対価値分析、需給要因分析、テクニカル分析に基づく複数の付加価値戦略を組み合わせることで、ポートフォリオの収益力向上とリスク軽減に努めます。</p> <p>債券の組入比率は高位を保つことを基本とします。</p> <p>外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。</p>

投資制限	<p>株式への投資は、転換社債の転換および転換社債型新株予約権付社債の新株予約権の行使により取得したものに限り、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の5%以下とします。</p> <p>同一銘柄の転換社債および転換社債型新株予約権付社債への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。</p> <p>外貨建資産への投資割合には制限を設けません。</p> <p>投資する株式は、わが国の取引所に上場されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式については、この限りではありません。</p> <p>デリバティブ取引（わが国の取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引、わが国の取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の取引所における通貨に係る先物取引およびオプション取引、わが国の取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引、スワップ取引、金利先渡取引、為替先渡取引）を行うことができます。</p> <p>デリバティブ取引等については、一般社団法人投資信託協会規則の定めるところに従い、合理的な方法により算出した額が投資信託財産の純資産総額を超えないものとします。</p> <p>信託財産に属する公社債を貸付けることができます。</p> <p>外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。</p> <p>外国為替の売買の予約取引の指図をすることができます。</p> <p>「投資信託及び投資法人に関する法律」並びに関係法令に基づく投資制限</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 委託会社は、投資信託財産に関し、金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る変動その他の理由により発生し得る危険に対応する額としてあらかじめ委託会社が定めた合理的な方法により算出した額が当該投資信託財産の純資産額を超えることとなる場合において、デリバティブ取引（新株予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引および選択権付債券売買を含みます。）を行い、または継続することを受託会社に指図しないものとします。</li> <li>・ 委託会社は、同一の法人の発行する株式について、委託会社が運用の指図を行う全ての委託者指図型投資信託につき投資信託財産として有する当該株式に係る議決権の総数が、当該株式に係る議決権の総数に100分の50を乗じて得た数を超えることとなる場合において、当該株式を投資信託財産をもって取得することを受託会社に指図することはできません。</li> </ul>
決算日、分配方針	<p>毎年12月5日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。</p> <p>投資信託財産から生ずる利益は、信託終了時まで投資信託財産中に留保し、期中には分配を行いません。</p>
申込手数料	ありません。
解約手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
信託報酬	ありません。

その他費用	<p>主に、以下の費用を投資信託財産から支弁します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組入有価証券の売買委託手数料</li> <li>・ 先物・オプション取引等の売買委託手数料</li> <li>・ 投資信託財産に関する租税</li> <li>・ 信託事務の処理に要する諸費用</li> <li>・ 海外における資産の保管等に要する費用</li> <li>・ 受託会社の立替えた立替金の利息</li> </ul>
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3. Jリート・マザーファンド

委託会社	岡三アセットマネジメント株式会社
投資助言会社	株式会社三井住友トラスト基礎研究所 不動産市場全体とJ-REITにかかる調査・分析情報等の助言を行います。
基本方針	安定した収益の確保と信託財産の成長を目指して運用を行います。
投資対象	わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます。）不動産投資信託証券を主要投資対象とします。
投資態度	<p>わが国の金融商品取引所に上場している（上場予定を含みます。）不動産投資信託証券に投資を行い、安定した収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。</p> <p>運用にあたっては、株式会社三井住友トラスト基礎研究所から不動産市場全体とJ-REITにかかる調査・分析情報等の助言を受けます。</p> <p>不動産投資信託証券の組入比率は、原則として高位に保つことを基本とします。</p> <p>資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。</p> <p>投資助言者、投資助言の内容、投資助言の有無については、変更する場合があります。</p>
投資制限	<p>投資信託証券への投資割合には制限を設けません。</p> <p>同一銘柄の投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。</p> <p>株式への投資は行いません。</p> <p>外貨建資産への投資は行いません。</p> <p>公社債にかかる運用の指図は、買い現先取引（売戻条件付買入れ）に限り行うことができます。</p> <p>投資する投資信託証券は、取引所に上場されている投資信託証券とします。ただし、上場予定の投資信託証券で目論見書等において上場されることが確認できるものについては投資することができます。</p>
決算日、分配方針	<p>毎年11月20日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行います。</p> <p>投資信託財産から生ずる利益は、信託終了時まで投資信託財産中に留保し、期中には分配を行いません。</p>
申込手数料	ありません。
解約手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
信託報酬	ありません。
その他費用	<p>主に、以下の費用を投資信託財産から支弁します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 組入有価証券の売買委託手数料</li> <li>・ 投資信託財産に関する租税</li> <li>・ 信託事務の処理に要する諸費用</li> <li>・ 受託会社の立替えた立替金の利息</li> </ul>

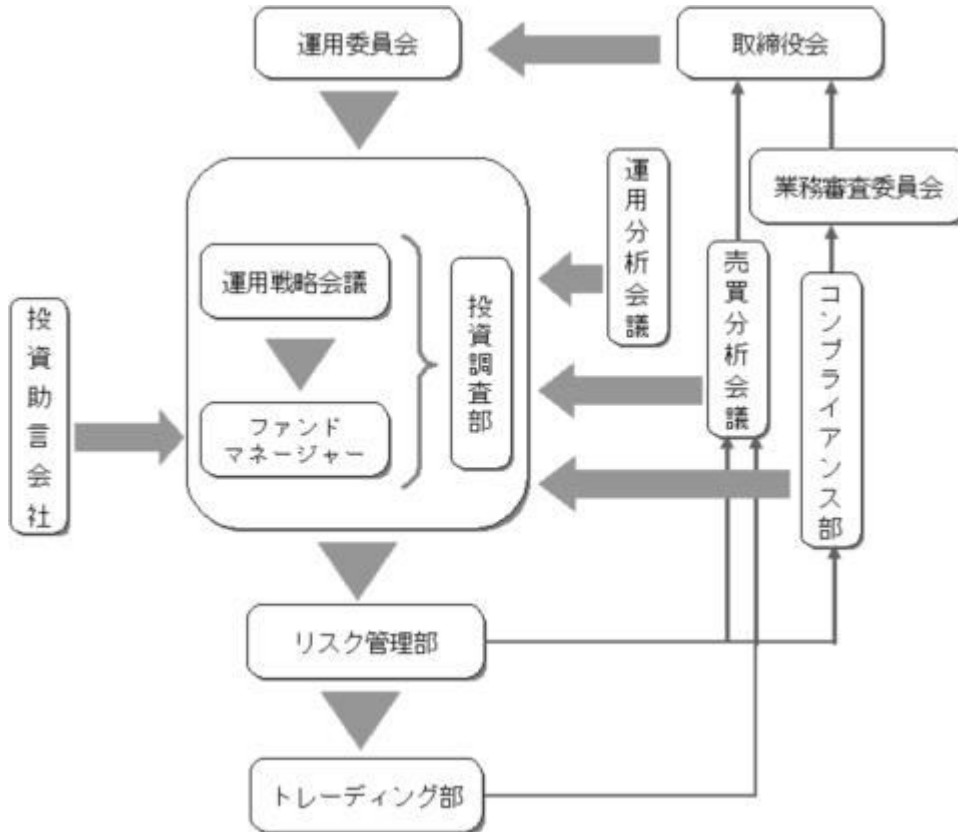
純資産総額の10%を超えて投資している不動産投資信託証券の概要

平成26年11月末日現在、Jリート・マザーファンドの純資産総額の10%を超えて投資している不動産投資信託証券はありません。

### (3) 【運用体制】

運用体制、内部管理および意思決定を監督する組織

ファンドの運用体制、内部管理および意思決定を監督する組織は、以下のようになります。



会議名または部署名	役割
運用委員会 (月1回開催)	運用本部で開催する「ストラテジー会議」で策定された投資環境分析と運用の基本方針案に基づいて検討を行い、運用の基本方針を決定します。また、運用に関する内規の制定及び改廃のほか、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項を決定します。
運用戦略会議 (月1回開催)	ファンドマネージャーより運用委員会で決定された運用の基本方針に基づいた個別ファンドの具体的な投資戦略が報告され、その内容について検討を行います。
運用担当部署	ファンドマネージャーは、運用戦略会議で検討された投資戦略に基づき、ファンド毎に具体的な運用計画を策定し、運用計画書・運用実施計画書に基づいて、運用の指図を行います。
投資助言会社	投資助言会社は、委託会社との投資顧問契約に基づき、投資助言を行います。
投資調査部	国内外のマクロ経済・セミマクロ経済の調査・分析、市場環境の分析、企業の調査・分析等を行い、ファンドマネージャーに情報提供を行うことで、運用をサポートします。

運用分析会議 (月1回開催)	運用のパフォーマンス向上、運用の適正性の確保、および運用のリスク管理に資することを目的に、個別ファンドの運用パフォーマンスを分析・検証・評価し、運用本部にフィードバックを行います。
売買分析会議 (月1回開催)	運用財産に係る運用の適切性確保に資することを目的にファンドの有価証券売買状況や組入れ状況など、日々、リスク管理部、トレーディング部が行っている運用の指図に関するチェック状況の報告・指摘を行います。議長は会議の結果を取締役会へ報告します。
業務審査委員会 (原則月1回開催)	運用の指図において発生した事務処理ミスや社内規程等に抵触した事項などについて、審議・検討を行います。委員長は審議・検討結果を取締役会へ報告します。
コンプライアンス部 (5名程度)	運用業務にかかわる関係法令及び社内諸規則等の遵守状況の検証並びに検証に基づく運用本部への指導を行います。
リスク管理部 (6名程度)	「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図につき、法令諸規則等に定める運用の指図に関する事項の遵守状況の確認を行います。発注前の検証として、発注内容が法令諸規則等に照らして適当であるのか伝票又はオーダー・マネジメント・システムのコンプライアンスチェック機能を利用して確認を行い、発注後の検証として、運用指図結果の適法性又は適正性について確認を行います。
トレーディング部 (7名程度)	有価証券、デリバティブ取引に係る権利等の発注に関し、法令諸規則等に基づいて最良執行に努めています。 また、運用指図の結果について最良執行の観点からの検証・分析を行います。

#### 社内規程

委託会社では、ファンドの運用に関する社内規程において、運用を行うに当たって遵守すべき事項等を定め、ファンドの商品性に則った適切な運用を行っています。

また、委託会社では、リスク管理規程において、運用に関するリスク管理方針を定め、運用本部及び運用本部から独立した部署が、運用の指図について運用の基本方針や法令諸規則等に照らして適切かどうかのモニタリング・検証を通じて、運用リスクの管理を行っています。

#### ファンドの関係法人(販売会社を除く)に対する管理体制等

「受託会社」または「再信託受託会社」に対しては、日々の基準価額および純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っております。

運用体制等につきましては、平成26年11月末日現在のものであり、変更になることがあります。

#### (4)【分配方針】

年6回、1月、3月、5月、7月、9月、11月の各月の10日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき分配を行います。

##### a 分配対象収益の範囲

繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。繰越分を含めた利子・配当等収益には、マザーファンドの利子・配当等収益のう



ち、投資信託財産に帰属すべき利子・配当等収益を含むものとします。

b 分配対象収益についての分配方針

収益分配は、主として利子・配当等収益等から行います。

ただし、1月の決算時の分配方針は、決算日に売買益(評価益を含みます。)等が存在するときは、利子・配当等収益に売買益(評価益を含みます。)等を加えた額を分配対象収益として分配を行います。

分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。

c 留保益の運用方針

分配に充てなかった留保益については、運用の基本方針と同一の運用を行います。

d 分配金は、決算日から起算して、原則として、5営業日までに販売会社を通じて支払いを開始します。

分配金再投資コースの場合、分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で再投資いたします。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)にお支払いします。また、分配金再投資コースの場合、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

分配方針に基づいて収益分配を行う予定ですが、分配金の支払いを保証するものではありません。

## (5) 【投資制限】

マザーファンド受益証券への投資割合には制限を設けません。

同一のマザーファンドの受益証券への投資は、原則として投資信託財産の純資産総額の50%以下とします。

同一銘柄の不動産投資信託証券への実質投資割合は、投資信託財産の純資産総額の30%以下とします。

外貨建資産への直接投資は行いません。

株式への直接投資は行いません。

### 公社債の運用指図

国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券(新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等)を除きます。)に係る運用の指図は、買い現先取引(売戻条件付買入れ)に限り行うことができます。

### 資金の借入れ

- a 委託会社は、投資信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資に係る収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、

当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。

- b 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から投資信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入指図を行う日における投資信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- c 収益分配金の再投資に係る借入期間は、投資信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は、収益分配金の再投資額を限度とします。
- d 借入金の利息は投資信託財産中より支弁します。

### 3【投資リスク】

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、国内の株式、内外の債券、国内の不動産投資信託証券等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

#### < 投資リスク >

##### 株価変動リスク

株式の価格は、株式の発行会社の業績や財務状況、株式市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

投資した株式の価格の上昇は、ファンドの基準価額の上昇要因となり、投資した株式の価格の下落は、ファンドの基準価額の下落要因となります。

投資した株式の価格の下落の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

##### 金利変動リスク

金利は、経済環境や物価動向、金融政策、経済政策等を反映して変動します。一般に、金利が上昇した場合には債券の価格は下落し、金利が低下した場合には債券の価格は上昇します。

投資した債券の価格の上昇は、ファンドの基準価額の上昇要因となり、投資した債券の価格の下落は、ファンドの基準価額の下落要因となります。

投資した債券の価格の下落の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

##### 不動産投資信託証券のリスク

- ・ 価格変動リスク

不動産投資信託証券の価格は、保有不動産等の価値や賃料収入の増減等に加え、市場の需給、政治・経済状況等の影響により変動します。

投資した不動産投資信託証券の価格の上昇は、ファンドの基準価額の上昇要因となり、投資した不動産投資信託証券の価格の下落は、ファンドの基準価額の下落要因となります。

投資した不動産投資信託証券の価格の下落の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失

を被る可能性があります。

- ・ 分配金（配当金）減少リスク

利益の大部分を投資家に分配（配当）するなどの一定の要件を満たすことにより、法人課税が減免される等の税制上の優遇措置を受けています。したがって、利益と分配金（配当金）との連動性が高く、利益が減少した場合には、分配金（配当金）も同様に減少する可能性があります。

- ・ 信用リスク

支払不能や債務超過の状態になった場合、またはそうなることが予想される場合には、市場価格が大幅に下落する可能性があります。このような場合には、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

- ・ 業績悪化リスク

投資家から集めた資金や金融機関等からの借入金等を不動産に投資して、不動産から得られた利益を投資家に分配（配当）する金融商品です。したがって、不動産賃貸料の減少、不動産の売却損失の発生、借入金の金利負担の増加などにより、利益が減少する可能性があります。

- ・ 自然災害・環境問題等のリスク

実物資産であるオフィスビル、商業施設、賃貸マンション等の不動産に投資を行うことから、地震等の自然災害、火災、環境問題等の予測不可能な偶発事象などにより、ビルや施設等が倒壊、毀損し、大きな損失を被る可能性があります。

- ・ 法律改正・税制の変更等によるリスク

建築規制の強化、不動産にかかる税制の変更などにより、投資対象とする不動産の市場評価額が下落し、損失を被る可能性があります。また、不動産投資信託にかかる税制の変更等により、市場価格が下落する可能性があります。

- ・ 上場廃止リスク

取引所等が定める一定の基準に該当することにより、上場が廃止される可能性があります。

- ・ 流動性リスク

株式市場と比較した場合、取引所等に上場している銘柄数は少なく、上場銘柄全体の時価総額も小さいことから、市場価格が大幅に変動する可能性があります。

### 為替変動リスク

外貨建資産は、為替相場の変動により円換算額が変動します。投資対象通貨に対して円高は、外貨建資産の円換算額の減少により、ファンドの基準価額の下落要因となり、投資対象通貨に対して円安は、外貨建資産の円換算額の増加により、ファンドの基準価額の上昇要因となります。投資対象通貨に対する円高の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

### 信用リスク

有価証券等の発行体の破綻や財務状況の悪化、および有価証券等の発行体の財務状況に関する外部評価の変化等の影響により、投資した有価証券等の価格が大きく下落することや、投資資金が回収不能となる場合があります。このような場合には、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

債券や短期金融商品を投資対象としますので、元利支払いの不履行もしくは遅延の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

### カントリーリスク

投資対象国・地域等における外貨不足等の経済的要因、政府の資産凍結等の政治的理由、社会情勢の混乱等の影響で、ファンドの基準価額が下落し、損失を被る可能性があります。

基準価額の変動要因は上記のリスクに限定されるものではありません。

#### < 留意事項 >

- ・ ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- ・ 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ・ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超過して支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ・ ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファンドが投資対象とするマザーファンドを他のベビーファンドが投資対象としている場合に、当該他のベビーファンドにおいて追加設定および一部解約等がなされた場合には、その結果として、マザーファンドにおいても売買等が生じ、ファンドの基準価額が影響を受けることがあります。

#### < 投資リスクに対する管理体制 >

- ・ 運用委員会において、運用に関する内規の制定および改廃のほか、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項を決定します。
- ・ リスク管理部は、投資信託財産の運用の指図につき法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款等（以下、「法令諸規則等」という。）に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認します。

リスク管理部は、原則として日々、次に掲げる方法による検証を行います。

運用の指図に関する帳票の確認

検証システムにより抽出される運用の実施状況に関するデータの確認

その他検証を行うために必要な行為

発注前の検証は、運用実施に関する内規に基づき、発注内容が法令諸規則等に照らして適当であるかどうか伝票又はオーダー・マネジメント・システムのコンプライアンスチェック機能を利用して確認を行います。発注後の検証は、運用指図結果の適法性又は適正性について確認を行います。

- ・ 運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行います。

## ファンドの年間騰落率及び分配金再投資基準価額の推移

2009年12月末～2014年11月末



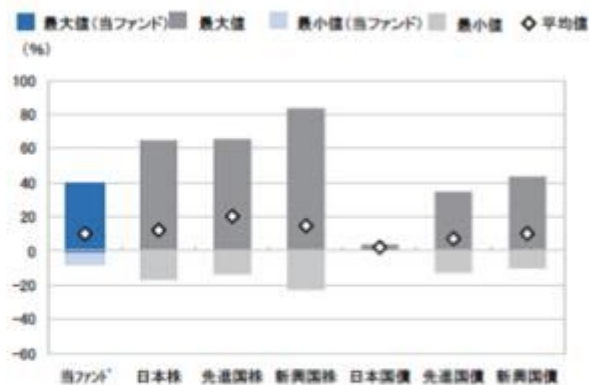
\*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。2009年12月末を10,000として指数化しております。

\*年間騰落率は、2009年12月から2014年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

## ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

グラフは、ファンドと代表的な資産のリスクを定量的に比較できるように作成したものです。

2009年12月末～2014年11月末



\*全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

\*2009年12月から2014年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

\*決算日に対応した数値とは異なります。

\*当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	39.6	65.0	65.7	83.9	4.1	34.9	43.7
最小値	△7.9	△17.0	△13.6	△22.8	0.4	△12.7	△10.1
平均値	10.2	12.3	20.4	14.9	2.3	7.3	10.3

## 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)  
 先進国株・・・MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ベース)  
 新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)  
 日本国債・・・NOMURA-BPI国債  
 先進国債・・・シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)  
 新興国債・・・JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)  
 (注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## ○代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、依拠性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

## 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

## MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAIインデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

## MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

## NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

## シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額加重平均した指数です。なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

## JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)は、JP Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、JP Morgan Securities LLCに帰属します。

## 4【手数料等及び税金】

## (1)【申込手数料】

申込金額（取得申込日の翌営業日の基準価額に申込口数を乗じて得た額）に、販売会社が独自に定める手数料率を乗じて得た額

手数料率の上限は、2.16%（税抜2.0%）です。手数料率は変更となる場合があります。詳細につきましては、販売会社にご確認下さい。

申込手数料は、ファンドの商品説明および販売事務手続き等の対価として販売会社に支払われ

ます。

「分配金再投資コース」の取得申込者が、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合には、無手数料とします。詳細につきましては、販売会社または委託会社にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先

岡三アセットマネジメント株式会社 カスタマーサービス部 0120-048-214

ホームページ <http://www.okasan-am.jp>

償還乗換等優遇措置の定めのある販売会社で支払いを受けた他のファンドの償還金又は販売会社が定める償還日前一定の期間内における解約代金等をもって取得申込みの場合には、申込手数料の一部又は全部の割引を受けられる場合があります。詳細につきましては、販売会社にお問い合わせ下さい。

(2) 【換金（解約）手数料】

ありません。

ただし、ご換金時には、1口当たり、解約請求受付日の翌営業日の基準価額の0.10%が信託財産留保額として控除されます。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額及びその配分

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、ファンドの純資産総額に年率1.188%（税抜1.10%）を乗じて得た額とします。

信託報酬は、「委託会社」、「販売会社」及び「受託会社」の間で次のように配分します。

委託会社	年率0.6156%（税抜0.57%）	委託した資金の運用の対価です。
販売会社	年率0.486%（税抜0.45%）	運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価です。
受託会社	年率0.0864%（税抜0.08%）	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価です。

香川県の社会福祉向上のための寄附

香川県の社会福祉向上のために、寄附を行います。寄附の金額は、計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年率0.15%を乗じて得た額とします。当該寄附は、委託会社が受取る信託報酬から行います。

なお、委託会社、販売会社、受託会社に係る上記の信託報酬は、寄附を行うことを考慮して決定しております。

寄附の具体的な内容等につきましては、運用報告書等を通じて、受益者にご報告します。

信託報酬の支払い時期

毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支弁します。

(4) 【その他の手数料等】



ファンドの組入有価証券の売買委託手数料は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支弁します。なお、マザーファンドの組入有価証券の売買委託手数料、先物・オプション取引等の売買委託手数料につきましては、間接的に受益者の負担となります。

ファンドの財務諸表の監査費用は、計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年率0.0108%（税抜0.01%）を乗じて得た額とし、毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支弁します。

ファンドの解約に伴う支払資金の手当て又は再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的とした借入金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

ファンドの投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、及び受託会社の立替えた立替金の利息は、受益者の負担とし、投資信託財産中から支弁します。なお、マザーファンドの投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用及び受託会社の立替えた立替金の利息につきましては、間接的に受益者の負担となります。

上記の他、投資信託約款の規定に基づく運用指図等により生じた費用をご負担いただく場合があります。また、その他の手数料等につきましては、財務諸表の監査費用を除き、運用状況等により変動するものであり、事前に金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。なお、上場不動産投資信託は市場の需給により価格形成されるため、上場不動産投資信託の費用は表示しておりません。

#### （５）【課税上の取扱い】

ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。  
公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

##### 個人受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金は、配当所得として、以下の税率による源泉徴収が行われます。確定申告は不要ですが、確定申告による総合課税または申告分離課税のいずれかを選択することもできます。

償還価額および解約価額から取得費（申込手数料および申込手数料に係る消費税等相当額を含みます。）を控除した利益は、譲渡所得となり、以下の税率による申告分離課税が適用されます。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）をご利用の場合には、原則として確定申告は不要です。

平成49年12月31日までは、復興特別所得税（所得税額×2.1%相当額）がかかります。

期間	税率
平成26年1月1日以降 平成49年12月31日まで	20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%）
平成50年1月1日以降	20%（所得税15%、地方税5%）

##### 法人受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに償還時及び解約時の個別元本超過額

については、以下の税率による源泉徴収が行われます。なお、地方税の源泉徴収はありません。また、源泉徴収された所得税は、法人税から控除できます。

平成49年12月31日までは、復興特別所得税（所得税額×2.1%相当額）がかかります。

期間	税率
平成26年1月1日以降 平成49年12月31日まで	15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）
平成50年1月1日以降	15%（所得税15%）

普通分配金、元本払戻金（特別分配金）とは

収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。

基準価額（分配落）が受益者の個別元本と同額の場合または上回っている場合には、分配金の全額が普通分配金となります。

基準価額（分配落）が受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、分配金から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。元本払戻金（特別分配金）は、元本の一部払戻しに相当し、非課税扱いとなります。

個別元本とは

個別元本とは、原則として、受益者毎の信託時の受益権の価額（申込手数料および申込手数料に係る消費税等相当額は含まれません。）をいい、追加信託のつど当該口数により加重平均されます。

ただし、複数の販売会社でファンドを買付けた場合は、販売会社ごとに個別元本の算出が行われます。

また、同一販売会社であっても、複数口座でファンドを買付けた場合には口座ごとに、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」を併用する場合にはコースごとに、個別元本の算出が行われることがあります。

受益者が、元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、個別元本は、分配金発生時の個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額となります。

少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合

毎年、年間100万円の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、満20歳以上の方で、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

その他

- ・ 益金不算入制度、配当控除の適用はありません。税務署等でご確認いただくことをおすすめいたします。
- ・ 買取請求による換金の場合の課税上の取扱い及び損益通算等につきましては、取得申込みを取り扱った販売会社にお問い合わせ下さい。

上記の内容は平成26年11月末日現在の税法に基づくものであり、税法が改正された場合には変

更になることがあります。

## 5【運用状況】

平成26年11月28日現在の運用状況は、以下の通りです。

投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率をいいます。また、小数点以下第3位を四捨五入しており、合計と合わない場合があります。

### （1）【投資状況】

#### 香川県応援ファンド

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（%）
親投資信託受益証券	日本	2,632,894,945	98.61
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		37,107,647	1.39
合計（純資産総額）		2,670,002,592	100.00

#### （参考）香川県関連株マザーファンド

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（%）
株式	日本	684,676,550	96.56
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		24,411,217	3.44
合計（純資産総額）		709,087,767	100.00

#### （参考）内外債券マザーファンド

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（%）
国債証券	アメリカ	1,333,505,085	42.48
	カナダ	209,965,259	6.69
	ドイツ	426,147,680	13.57
	フランス	389,221,088	12.40
	イギリス	439,657,270	14.00
	オーストラリア	229,702,288	7.32
	小計		3,028,198,670
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		111,106,589	3.54
合計（純資産総額）		3,139,305,259	100.00

#### （参考）Jリート・マザーファンド

資産の種類	国/地域	時価合計（円）	投資比率（％）
投資証券	日本	26,098,909,600	98.37
コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）		433,632,205	1.63
合計（純資産総額）		26,532,541,805	100.00

## （２）【投資資産】

### 【投資有価証券の主要銘柄】

組入銘柄は、上位30銘柄もしくは全銘柄を記載しています。

### 香川県応援ファンド

国/地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	投資 比率 （％）
日本	親投資信託受益証券	内外債券マザーファンド	690,383,893	1.6883	1,165,575,127	1.7554	1,211,899,885	45.39
日本	親投資信託受益証券	Jリート・マザーファンド	299,193,276	2.2169	663,281,574	2.3795	711,930,400	26.66
日本	親投資信託受益証券	香川県関連株マザーファンド	538,393,820	1.2628	679,883,715	1.3170	709,064,660	26.56

### （種類別投資比率）

種類	投資比率（％）
親投資信託受益証券	98.61
合計	98.61

### （参考）香川県関連株マザーファンド

国/地域	種類	銘柄名	業種	数量	帳簿価額 単価 （円）	帳簿価額 金額 （円）	評価額 単価 （円）	評価額 金額 （円）	投資 比率 （％）
日本	株式	パナソニック	電気機器	20,800	1,055.00	21,944,000	1,532.50	31,876,000	4.50
日本	株式	四国電力	電気・ガス業	19,100	1,308.73	24,996,903	1,483.00	28,325,300	3.99
日本	株式	ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	11,100	1,881.55	20,885,276	2,525.50	28,033,050	3.95
日本	株式	ブリヂストン	ゴム製品	6,600	3,544.50	23,393,705	4,079.50	26,924,700	3.80
日本	株式	川崎重工業	輸送用機器	50,000	371.00	18,550,000	522.00	26,100,000	3.68
日本	株式	タダノ	機械	15,000	1,463.11	21,946,702	1,734.00	26,010,000	3.67
日本	株式	ユニ・チャーム	化学	9,500	1,902.00	18,069,000	2,717.00	25,811,500	3.64
日本	株式	三菱電機	電気機器	18,000	1,182.00	21,276,000	1,426.50	25,677,000	3.62
日本	株式	百十四銀行	銀行業	65,000	334.04	21,712,724	390.00	25,350,000	3.58
日本	株式	イオン	小売業	20,800	1,164.56	24,223,022	1,183.00	24,606,400	3.47
日本	株式	明治ホールディングス	食料品	2,300	6,607.12	15,196,376	10,650.00	24,495,000	3.45
日本	株式	三菱ケミカルホールディングス	化学	40,000	403.00	16,120,000	611.50	24,460,000	3.45

日本	株式	味の素	食料品	11,000	1,497.00	16,467,000	2,215.50	24,370,500	3.44
日本	株式	アオイ電子	電気機器	3,900	2,115.00	8,248,500	5,860.00	22,854,000	3.22
日本	株式	トモニホールディングス	銀行業	44,000	417.73	18,380,120	518.00	22,792,000	3.21
日本	株式	日本電気	電気機器	59,000	295.04	17,407,810	373.00	22,007,000	3.10
日本	株式	日清食品ホールディングス	食料品	3,600	4,650.00	16,740,000	5,950.00	21,420,000	3.02
日本	株式	四国化成工業	化学	25,000	660.00	16,500,000	793.00	19,825,000	2.80
日本	株式	ジェイテクト	機械	10,000	1,470.00	14,700,000	1,969.00	19,690,000	2.78
日本	株式	三越伊勢丹ホールディングス	小売業	12,500	1,327.00	16,587,500	1,559.00	19,487,500	2.75
日本	株式	三菱マテリアル	非鉄金属	45,000	291.00	13,095,000	373.00	16,785,000	2.37
日本	株式	日清製粉グループ本社	食料品	12,800	1,050.00	13,440,000	1,175.00	15,040,000	2.12
日本	株式	大倉工業	化学	42,000	292.00	12,264,000	345.00	14,490,000	2.04
日本	株式	王子ホールディングス	パルプ・紙	34,000	414.00	14,076,000	416.00	14,144,000	1.99
日本	株式	丸一鋼管	鉄鋼	5,300	2,418.00	12,815,400	2,606.00	13,811,800	1.95
日本	株式	穴吹興産	不動産業	52,000	316.23	16,444,189	264.00	13,728,000	1.94
日本	株式	前田道路	建設業	7,000	1,679.81	11,758,685	1,681.00	11,767,000	1.66
日本	株式	協和エクシオ	建設業	8,300	1,366.00	11,337,800	1,346.00	11,171,800	1.58
日本	株式	四電工	建設業	27,000	373.75	10,091,369	408.00	11,016,000	1.55
日本	株式	レンゴー	パルプ・紙	22,000	456.00	10,032,000	478.00	10,516,000	1.48

## (種類別及び業種別投資比率)

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
株式	国内	水産・農林業	0.99
		建設業	4.79
		食料品	12.86
		繊維製品	0.78
		パルプ・紙	3.48
		化学	13.89
		ゴム製品	4.76
		ガラス・土石製品	0.13
		鉄鋼	5.90
		非鉄金属	2.37
		機械	6.44
		電気機器	14.44
		輸送用機器	3.68
		その他製品	0.28
		電気・ガス業	3.99
		小売業	8.64
		銀行業	6.79
		不動産業	1.94
サービス業	0.40		
合計			96.56

## （参考）内外債券マザーファンド

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
アメリカ	国債証券	TREASURY NOTE	3,000,000	12,508.36	375,250,936	12,713.41	381,402,591	3.125	2021年5月15日	12.15
ドイツ	国債証券	BUNDES REPUB	1,000,000	20,950.38	209,503,872	22,202.17	222,021,760	6.25	2024年1月4日	7.07
アメリカ	国債証券	TREASURY BOND	1,500,000	13,058.56	195,878,476	13,371.07	200,566,111	3.625	2043年8月15日	6.39
イギリス	国債証券	U.K. TREASURY	800,000	21,386.11	171,088,904	21,803.77	174,430,187	4.75	2020年3月7日	5.56
オーストラリア	国債証券	AUSTRALIAN GOVT	1,500,000	10,694.79	160,421,966	10,975.47	164,632,147	4.5	2020年4月15日	5.24
アメリカ	国債証券	TREASURY BOND	1,000,000	16,244.61	162,446,173	16,365.61	163,656,183	7.125	2023年2月15日	5.21
カナダ	国債証券	CANADA GOVERNMENT	1,000,000	15,445.45	154,454,560	15,552.54	155,525,421	8	2023年6月1日	4.95
アメリカ	国債証券	TREASURY NOTE	1,000,000	12,948.03	129,480,323	13,066.26	130,662,623	3.625	2021年2月15日	4.16
アメリカ	国債証券	TREASURY NOTE	1,000,000	13,114.14	131,141,454	13,016.38	130,163,840	3.625	2020年2月15日	4.15
アメリカ	国債証券	TREASURY NOTE	1,000,000	12,876.42	128,764,293	12,960.96	129,609,637	3.625	2019年8月15日	4.13
アメリカ	国債証券	TREASURY NOTE	1,000,000	12,937.90	129,379,089	12,949.87	129,498,797	3.5	2020年5月15日	4.13
フランス	国債証券	FRANCE GOVERNMENT	700,000	16,589.44	116,126,080	17,251.84	120,762,880	3.5	2020年4月25日	3.85
ドイツ	国債証券	BUNDES REPUB	500,000	20,226.75	101,133,760	23,203.87	116,019,360	4.75	2034年7月4日	3.70
フランス	国債証券	FRANCE GOVERNMENT	500,000	19,402.43	97,012,160	22,372.92	111,864,640	4.5	2041年4月25日	3.56
イギリス	国債証券	U.K. TREASURY	500,000	20,842.62	104,213,103	21,187.14	105,935,749	4.5	2019年3月7日	3.37
イギリス	国債証券	U.K. TREASURY	500,000	20,347.65	101,738,250	20,981.91	104,909,590	3.75	2020年9月7日	3.34
ドイツ	国債証券	BUNDES REPUB	500,000	16,735.16	83,675,840	17,621.31	88,106,560	3.25	2021年7月4日	2.81
フランス	国債証券	FRANCE GOVERNMENT	500,000	15,921.88	79,609,440	17,327.64	86,638,240	3	2022年4月25日	2.76
フランス	国債証券	FRANCE GOVERNMENT	400,000	16,283.26	65,133,056	17,488.83	69,955,328	3.25	2021年10月25日	2.23
アメリカ	国債証券	TREASURY BOND	400,000	16,479.23	65,916,920	16,986.32	67,945,303	6.875	2025年8月15日	2.16
オーストラリア	国債証券	AUSTRALIAN GOVT	500,000	10,903.87	54,519,358	10,986.95	54,934,787	5.5	2018年1月21日	1.75
カナダ	国債証券	CANADA GOVERNMENT	500,000	11,021.26	55,106,325	10,887.96	54,439,838	4	2016年6月1日	1.73
イギリス	国債証券	U.K. TREASURY	200,000	24,490.35	48,980,716	27,190.87	54,381,744	6	2028年12月7日	1.73
オーストラリア	国債証券	AUSTRALIAN GOVT	100,000	9,924.26	9,924,266	10,135.35	10,135,354	3.25	2025年4月21日	0.32

## （種類別投資比率）

種類	投資比率（%）
国債証券	96.46

合計	96.46
----	-------

## (参考) リート・マザーファンド

国/ 地域	種類	銘柄名	数量	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
日本	投資証券	日本ビルファンド投資法人 投資証券	2,880	599,000	1,725,120,000	598,000	1,722,240,000	6.49
日本	投資証券	ジャパンリアルエステイト投資法人 投資証券	2,943	588,000	1,730,484,000	585,000	1,721,655,000	6.49
日本	投資証券	日本プライムリアルティ投資法人 投資証券	3,290	416,500	1,370,285,000	430,500	1,416,345,000	5.34
日本	投資証券	ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	6,577	190,100	1,250,287,700	190,700	1,254,233,900	4.73
日本	投資証券	日本プロロジスリート投資法人 投資証券	4,730	264,800	1,252,504,000	258,700	1,223,651,000	4.61
日本	投資証券	日本リテールファンド投資法人 投資証券	4,800	236,100	1,133,280,000	247,000	1,185,600,000	4.47
日本	投資証券	ケネディクス・オフィス投資法人 投資証券	1,635	636,124	1,040,064,148	655,000	1,070,925,000	4.04
日本	投資証券	アドバンス・レジデンス投資法人 投資証券	3,533	286,500	1,012,204,500	290,000	1,024,570,000	3.86
日本	投資証券	ジャパン・ホテル・リート投資法人 投資証券	13,223	72,500	958,667,500	77,200	1,020,815,600	3.85
日本	投資証券	オリックス不動産投資法人 投資証券	6,104	158,400	966,873,600	164,800	1,005,939,200	3.79
日本	投資証券	森ヒルズリート投資法人 投資証券	5,029	163,500	822,241,500	166,100	835,316,900	3.15
日本	投資証券	インヴィンシブル投資法人 投資証券	18,866	40,650	766,902,900	44,000	830,104,000	3.13
日本	投資証券	G L P 投資法人 投資証券	6,060	134,500	815,070,000	136,800	829,008,000	3.12
日本	投資証券	アクティブピア・プロパティーズ投資法人 投資証券	710	946,000	671,660,000	981,000	696,510,000	2.63
日本	投資証券	日本賃貸住宅投資法人 投資証券	8,190	78,900	646,191,000	84,800	694,512,000	2.62
日本	投資証券	ジャパンエクセレント投資法人 投資証券	4,350	147,600	642,060,000	155,900	678,165,000	2.56
日本	投資証券	ケネディクス・レジデンシャル投資法人 投資証券	2,077	300,500	624,138,500	324,500	673,986,500	2.54
日本	投資証券	産業ファンド投資法人 投資証券	635	1,022,059	649,007,589	1,053,000	668,655,000	2.52
日本	投資証券	大和証券オフィス投資法人 投資証券	1,070	602,000	644,140,000	598,000	639,860,000	2.41
日本	投資証券	森トラスト総合リート投資法人 投資証券	2,820	217,700	613,914,000	224,700	633,654,000	2.39
日本	投資証券	日本ロジスティクスファンド投資法人 投資証券	2,300	258,400	594,320,000	266,600	613,180,000	2.31
日本	投資証券	野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	3,877	145,600	564,491,200	153,900	596,670,300	2.25
日本	投資証券	イオンリート投資法人 投資証券	3,308	162,700	538,211,600	171,200	566,329,600	2.13
日本	投資証券	星野リゾート・リート投資法人 投資証券	389	1,178,000	458,242,000	1,209,000	470,301,000	1.77
日本	投資証券	ヒューリックリート投資法人 投資証券	2,581	173,800	448,577,800	182,100	470,000,100	1.77
日本	投資証券	コンフォリア・レジデンシャル投資法人 投資証券	1,880	218,400	410,592,000	243,000	456,840,000	1.72
日本	投資証券	大和ハウスリート投資法人 投資証券	830	538,000	446,540,000	528,000	438,240,000	1.65
日本	投資証券	スタートアッププロシード投資法人 投資証券	2,036	181,319	369,167,029	187,500	381,750,000	1.44
日本	投資証券	福岡リート投資法人 投資証券	1,615	208,900	337,373,500	220,000	355,300,000	1.34



日本	投資証券	大和ハウス・レジデンシャル投資法人 投資証券	502	521,000	261,542,000	541,000	271,582,000	1.02
----	------	---------------------------	-----	---------	-------------	---------	-------------	------

（種類別投資比率）

種類	投資比率（％）
投資証券	98.37
合計	98.37

【投資不動産物件】

香川県応援ファンド

該当事項はありません。

（参考）香川県関連株マザーファンド

該当事項はありません。

（参考）内外債券マザーファンド

該当事項はありません。

（参考）Jリート・マザーファンド

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

香川県応援ファンド

該当事項はありません。

（参考）香川県関連株マザーファンド

該当事項はありません。

（参考）内外債券マザーファンド

該当事項はありません。

（参考）Jリート・マザーファンド

該当事項はありません。

（3）【運用実績】

## 【純資産の推移】

## 香川県応援ファンド

	純資産総額(円)		基準価額(円) (1口当たり)	
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)
第1特定期間末 (平成18年11月10日)	3,601,676,474	3,612,098,408	1.0368	1.0398
第2特定期間末 (平成19年 5月10日)	4,818,826,084	5,094,584,342	1.1203	1.1969
第3特定期間末 (平成19年11月12日)	4,237,388,813	4,279,972,155	0.9882	0.9981
第4特定期間末 (平成20年 5月12日)	3,942,386,138	3,984,709,118	0.9302	0.9401
第5特定期間末 (平成20年11月10日)	3,037,929,425	3,079,289,033	0.7309	0.7408
第6特定期間末 (平成21年 5月11日)	2,940,904,788	2,980,675,905	0.7515	0.7614
第7特定期間末 (平成21年11月10日)	2,923,687,830	2,961,930,004	0.7596	0.7695
第8特定期間末 (平成22年 5月10日)	2,857,825,486	2,901,008,596	0.7781	0.7897
第9特定期間末 (平成22年11月10日)	2,611,649,303	2,665,380,964	0.7360	0.7510
第10特定期間末 (平成23年 5月10日)	2,457,759,780	2,508,447,716	0.7444	0.7594
第11特定期間末 (平成23年11月10日)	2,143,482,128	2,191,894,873	0.6745	0.6895
第12特定期間末 (平成24年 5月10日)	2,098,113,361	2,144,011,670	0.6987	0.7137
第13特定期間末 (平成24年11月12日)	1,936,777,349	1,979,938,069	0.6791	0.6941
第14特定期間末 (平成25年 5月10日)	2,587,626,965	2,629,555,122	0.9345	0.9495
第15特定期間末 (平成25年11月11日)	2,331,012,496	2,370,746,011	0.9018	0.9168
第16特定期間末 (平成26年 5月12日)	2,347,412,243	2,385,408,282	0.9306	0.9456
第17特定期間末 (平成26年11月10日)	2,574,904,273	2,612,122,863	1.0455	1.0605
平成25年11月末日	2,411,364,069		0.9383	
12月末日	2,446,608,205		0.9618	
平成26年 1月末日	2,386,996,716		0.9408	
2月末日	2,398,056,503		0.9458	
3月末日	2,367,272,443		0.9352	
4月末日	2,363,393,432		0.9370	
5月末日	2,385,054,235		0.9499	
6月末日	2,431,205,969		0.9702	
7月末日	2,444,300,668		0.9789	
8月末日	2,486,239,675		0.9955	
9月末日	2,516,729,163		1.0170	
10月末日	2,541,810,308		1.0283	
11月末日	2,670,002,592		1.0960	

## 【分配の推移】

## 香川県応援ファンド

	期間	分配金 (1口当たり)
第1特定期間	平成18年 5月19日～平成18年11月10日	0.0030円
第2特定期間	平成18年11月11日～平成19年 5月10日	0.0766円
第3特定期間	平成19年 5月11日～平成19年11月12日	0.0099円
第4特定期間	平成19年11月13日～平成20年 5月12日	0.0099円
第5特定期間	平成20年 5月13日～平成20年11月10日	0.0099円
第6特定期間	平成20年11月11日～平成21年 5月11日	0.0099円
第7特定期間	平成21年 5月12日～平成21年11月10日	0.0099円
第8特定期間	平成21年11月11日～平成22年 5月10日	0.0116円
第9特定期間	平成22年 5月11日～平成22年11月10日	0.0150円
第10特定期間	平成22年11月11日～平成23年 5月10日	0.0150円
第11特定期間	平成23年 5月11日～平成23年11月10日	0.0150円
第12特定期間	平成23年11月11日～平成24年 5月10日	0.0150円
第13特定期間	平成24年 5月11日～平成24年11月12日	0.0150円
第14特定期間	平成24年11月13日～平成25年 5月10日	0.0150円
第15特定期間	平成25年 5月11日～平成25年11月11日	0.0150円
第16特定期間	平成25年11月12日～平成26年 5月12日	0.0150円
第17特定期間	平成26年 5月13日～平成26年11月10日	0.0150円

## 【収益率の推移】

## 香川県応援ファンド

	期間	収益率(%)
第1特定期間	平成18年 5月19日～平成18年11月10日	4.0
第2特定期間	平成18年11月11日～平成19年 5月10日	15.4
第3特定期間	平成19年 5月11日～平成19年11月12日	10.9
第4特定期間	平成19年11月13日～平成20年 5月12日	4.9
第5特定期間	平成20年 5月13日～平成20年11月10日	20.4
第6特定期間	平成20年11月11日～平成21年 5月11日	4.2
第7特定期間	平成21年 5月12日～平成21年11月10日	2.4
第8特定期間	平成21年11月11日～平成22年 5月10日	4.0
第9特定期間	平成22年 5月11日～平成22年11月10日	3.5
第10特定期間	平成22年11月11日～平成23年 5月10日	3.2
第11特定期間	平成23年 5月11日～平成23年11月10日	7.4
第12特定期間	平成23年11月11日～平成24年 5月10日	5.8
第13特定期間	平成24年 5月11日～平成24年11月12日	0.7
第14特定期間	平成24年11月13日～平成25年 5月10日	39.8
第15特定期間	平成25年 5月11日～平成25年11月11日	1.9
第16特定期間	平成25年11月12日～平成26年 5月12日	4.9

第17特定期間	平成26年 5月13日～平成26年11月10日	14.0
---------	-------------------------	------

（注）収益率は期間騰落率です。小数点以下第2位を四捨五入しております。

#### （４）【設定及び解約の実績】

##### 香川県応援ファンド

期間	設定数量（口）	解約数量（口）
第1特定期間	3,486,161,261	12,183,152
第2特定期間	1,017,459,718	190,238,610
第3特定期間	122,271,341	135,408,890
第4特定期間	105,163,254	155,024,885
第5特定期間	65,040,105	146,862,987
第6特定期間	29,390,449	272,575,464
第7特定期間	200,000	64,454,686
第8特定期間	662,799	176,735,322
第9特定期間	132,338	124,672,891
第10特定期間	1,301,744	248,144,510
第11特定期間	2,140,534	125,743,180
第12特定期間	54,817	175,072,674
第13特定期間	29,362	150,836,499
第14特定期間	13,578,018	96,592,919
第15特定期間	7,020,247	191,098,748
第16特定期間	1,649,555	64,231,660
第17特定期間	585,146	60,159,074

#### 参考情報

### 運用実績

#### 基準価額・純資産の推移(2006年5月19日～2014年11月28日)



※基準価額は1万口当たり、信託報酬控除後です。  
 ※分配金再投資基準価額は、決算時の分配金を非課税で再投資したものと計算しております。  
 ※設定時から10年以上経過した場合は、直近10年分を記載しています。

#### 主な資産の状況

#### 2014年11月28日 現在 分配金の推移

2014年11月	50円
2014年9月	50円
2014年7月	50円
2014年5月	50円
2014年3月	50円
直近1年累計	300円
設定来累計	2,757円

※上記分配金は1万口当たり、税引前です。

## 組入ファンド

ファンド名	純資産比率
内外債券マザーファンド	45.39%
Jリート・マザーファンド	26.66%
香川県関連株マザーファンド	26.56%

株式組入上位銘柄  
(香川県関連株マザーファンド)

銘柄名	業種	純資産比率
パナソニック	電気機器	4.50%
四国電力	電気・ガス業	3.99%
ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	3.95%
ブリヂストン	ゴム製品	3.80%
川崎重工業	輸送用機器	3.68%

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する比率です(以下同じ)。

債券組入上位銘柄  
(内外債券マザーファンド)

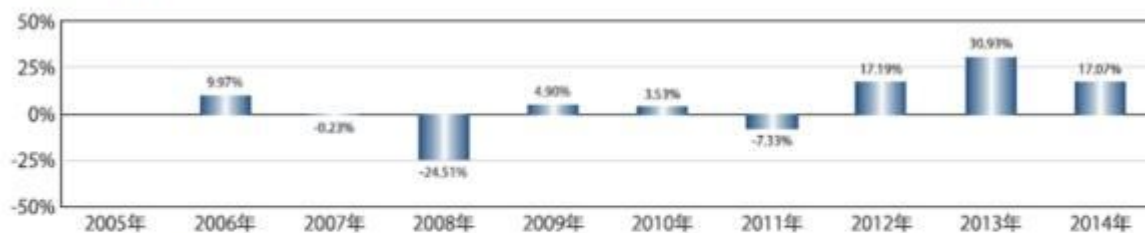
銘柄名	償還日	利率	国/地域	純資産比率
TREASURY NOTE	2021/05/15	3.125%	アメリカ	12.15%
BUNDES REPUB	2024/01/04	6.250%	ドイツ	7.07%
TREASURY BOND	2043/08/15	3.625%	アメリカ	6.39%
U.K. TREASURY	2020/03/07	4.750%	イギリス	5.56%
AUSTRALIAN GOVT	2020/04/15	4.500%	オーストラリア	5.24%

REIT組入上位銘柄  
(Jリート・マザーファンド)

銘柄名	純資産比率
日本ビルファンド投資法人 投資証券	6.49%
ジャパンリアルエステイト投資法人 投資証券	6.49%
日本プライムリアルティ投資法人 投資証券	5.34%
ユナイテッドアーバン投資法人 投資証券	4.73%
日本プロロジスリート投資法人 投資証券	4.61%

※組入銘柄は、上位5銘柄もしくは全銘柄を記載しています。

## 年間収益率の推移



※ファンドにはベンチマークはありません。  
 ※2006年はファンドの設立日から年末まで、2014年は11月末までの騰落率を示しています。  
 ※ファンドの年間収益率は、基準価額増減に分配金(税引前)を合計して算出しています。

・過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。  
 ・最新の運用実績は、委託会社のホームページ、または販売会社でご確認いただけます。

## 第2【管理及び運営】

## 1【申込（販売）手続等】

## 取得申込受付日

取得申込みは、申込期間における販売会社の営業日（ただし、委託会社の休業日を除きます。）に行うことができます。

ただし、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、取得申込みの受付を中止することや、すでに受付けた取得申込みの受付を取消すことがあります。

## 取得申込受付時間

原則として、午後3時までとし、販売会社所定の事務手続きが完了した場合に、当日の受付として取り扱います。この時間を過ぎての申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

## 取得申込手続

- 取得申込者は、販売会社に、取得申込と同時にまたはあらかじめ当該取得申込者が受益権の振替を行うための振替機関等の口座を申し出るものとし、当該口座に当該取得申込者に係る口数

の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込の代金の支払いと引き換えに、当該口座に当該取得申込者に係る口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社債、株式等の振替に関する法律(以下「社振法」といいます。)に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。振替機関等は、委託会社から振替機関への通知があった場合、社振法の規定にしたがい、その備える振替口座簿への新たな記載または記録を行います。受託会社は、追加信託により生じた受益権については追加信託のつど、振替機関の定める方法により、振替機関へ当該受益権に係る信託を設定した旨の通知を行います。

- ・ 取得申込方法には、「分配金受取りコース」と「分配金再投資コース」の2つのコースがあります。ファンドからお支払いする収益分配金のお受取りをご希望される取得申込者は「分配金受取りコース」を、収益分配金を自動的に再投資することをご希望される取得申込者は「分配金再投資コース」をお申込み下さい。
- ・ 「分配金再投資コース」を選択された取得申込者は、販売会社との間で、ファンドに係る累積投資約款(別の名称で同様の権利義務関係を規定するものを含みます。)に基づく収益分配金の再投資等に係る契約を結んでいただきます。また、分配金再投資コースで「定時定額購入サービス」をご利用の取得申込者は、販売会社との間で定時定額購入サービスに関する取り決めを行っていただきます。
- ・ 申込単位は、販売会社が定める単位とします。詳細につきましては、販売会社にご確認ください。
- ・ 1口当たりの発行価格は、取得申込日の翌営業日の基準価額とします。  
なお、「分配金再投資コース」の取得申込者が、ファンドに係る累積投資契約(別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。)に基づき、収益分配金の再投資によりファンドを買付ける場合には、決算日の基準価額とします。  
基準価額は、毎営業日(委託会社の営業日をいいます。)計算し、販売会社又は委託会社にお問い合わせいただければいつでもお知らせします。
- ・ 申込代金は、1口当たりの発行価格に申込口数を乗じて得た申込金額に、申込手数料(消費税等相当額を含みます。)を加算した額です。
- ・ 申込代金は、取得申込みを取り扱った販売会社の本・支店等でお支払い下さい。詳細につきましては、販売会社又は委託会社にお問い合わせ下さい。
- ・ 申込代金の払込期日については、販売会社が定める期日までに販売会社でお支払い下さい。詳細につきましては、販売会社にお問い合わせ下さい。

#### お問い合わせ先

岡三アセットマネジメント株式会社 カスタマーサービス部 0120-048-214  
ホームページ <http://www.okasan-am.jp>

## 2【換金(解約)手続等】

### 換金申込受付日

受益者は、販売会社の営業日(ただし、委託会社の休業日を除きます。)に、販売会社を通じて、換金の請求をすることができます。

### 換金申込受付時間

原則として、午後3時までとし、販売会社所定の事務手続きが完了した場合に、当日の受付として取り扱います。この時間を過ぎての申込みは、翌営業日の取扱いとなります。

### 解約請求制による換金手続

- ・ 受益者は、取得申込みを取り扱った販売会社を通じて委託会社に、販売会社の定める単位を

もって、解約の請求をすることができます。

解約単位は、販売会社にお問い合わせ下さい。

- ・ 受益者は、その口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求に係るこの投資信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引き換えに、当該一部解約に係る受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。
- ・ 解約価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額から当該基準価額に0.10%の率を乗じて得た額を信託財産留保額として控除した価額とします。解約価額については、取得申込みを取り扱った販売会社にお問い合わせ下さい。
- ・ 解約手数料はありません。
- ・ 解約代金は、解約請求受付日から起算して、原則として、5営業日目から販売会社を通じてお支払いします。

#### 解約請求の受付の中止及び取消

- ・ 取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、解約請求の受付を中止することや、すでに受付けた解約請求の受付を取消することがあります。
- ・ 解約請求の受付が中止された場合には、受益者は当該受付の中止以前に行った当日の解約請求を撤回できます。ただし、受益者がその解約請求を撤回しない場合には、当該解約価額は、当該受付再開後の最初の基準価額の計算日に解約請求を受付けたものとして計算された価額とします。

買取によるご換金については、販売会社にお問い合わせ下さい。

### 3【資産管理等の概要】

#### (1)【資産の評価】

##### 基準価額の計算方法

基準価額は、投資信託財産に属する資産を法令及び一般社団法人投資信託協会規則に従って時価または償却原価法により評価して得た投資信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（以下「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。なお、基準価額は、便宜上1万口当たりで表示されることがあります。

##### マザーファンドの評価

ファンドが主要投資対象とするマザーファンドは、マザーファンドの基準価額で評価します。

##### 債券の評価

マザーファンドを通じて投資する債券は、原則として、日本証券業協会発表の売買参考統計値（平均値）、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場を除く。）又は価格情報会社の提供する価額等で評価します。

##### 株式の評価

マザーファンドを通じて投資するわが国の金融商品取引所上場株式は、原則として、取引所における最終相場で評価します。

##### 不動産投資信託証券の評価

マザーファンドを通じて投資するわが国の金融商品取引所に上場している不動産投資信託証



券は、原則として、取引所における最終相場で評価します。

#### 外貨建資産の円換算、予約為替の評価

マザーファンドを通じて投資する外貨建資産の円換算については、原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算します。また、予約為替の評価は、原則として、わが国における計算日の対顧客先物売買相場の仲値によるものとします。

#### 基準価額に関する照会方法等

基準価額は、毎営業日（委託会社の営業日をいいます。）計算し、販売会社又は委託会社にお問い合わせいただければいつでもお知らせします。

#### お問い合わせ先

岡三アセットマネジメント株式会社 カスタマーサービス部 0120-048-214  
ホームページ <http://www.okasan-am.jp>

なお、基準価額は、計算日の翌日付の日本経済新聞に1万口当たりで掲載されます。掲載に関する権利は株式会社日本経済新聞社にあり、掲載されない場合もあります。また、基準価額は、掲載後変更される場合がありますので、販売会社又は委託会社で確認して下さい。

#### （２）【保管】

該当事項はありません。

#### （３）【信託期間】

信託期間は、平成18年5月19日から無期限とします。

ただし、投資信託契約の解約（繰上償還）の規定により、信託を終了させる場合があります。

#### （４）【計算期間】

計算期間は、原則として、毎年1月11日から3月10日まで、3月11日から5月10日まで、5月11日から7月10日まで、7月11日から9月10日まで、9月11日から11月10日まで、11月11日から翌年1月10日までとします。

なお、各計算期間終了日に該当する日（以下「該当日」といいます。）が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が始まるものとします。

#### （５）【その他】

##### 投資信託契約の解約（繰上償還）

- a 委託会社は、信託期間中において、この投資信託契約を終了させることが受益者のため有利であると認めるとき、投資信託契約の一部を解約することにより受益権の口数が5億口を下回ったとき、又はやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この投資信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届出ます。
- b 委託会社は、上記aの事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面をこの投資信託契約に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託契約に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

- c 上記bの公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- d 上記cの一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、投資信託契約の解約をしません。
- e 委託会社は、この投資信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- f 上記cからeまでの規定は、投資信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、一定の期間が一月を下らずにその公告及び書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。
- g 委託会社は、監督官庁よりこの投資信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、投資信託契約を解約し、信託を終了させます。
- h 委託会社が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したとき又は業務を廃止したときは、委託会社は、この投資信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が、この投資信託契約に関する委託会社の業務を他の委託会社に引き継ぐことを命じたときは、後述の[投資信託約款の変更]dに該当する場合を除き、その委託会社と受託会社との間において存続します。
- i 受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

#### 投資信託約款の変更

- a 委託会社は、受益者の利益のため必要と認めるとき又はやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この投資信託約款を変更することができるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨及びその内容を監督官庁に届出ます。
- b 委託会社は、上記aの変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨及びその内容を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面をこの投資信託約款に係る知られたる受益者に対して交付します。ただし、この投資信託約款に係るすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- c 上記bの公告及び書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一月を下らないものとします。
- d 上記cの一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、投資信託約款の変更をしません。
- e 委託会社は、当該投資信託約款の変更をしないこととしたときは、変更しない旨及びその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、すべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
- f 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて、この投資信託約款を変更しようとするときは、上記bからeの規定に従います。

#### 反対者の買取請求権

前述の投資信託契約の解約(繰上償還)又は投資信託約款の変更を行う場合において、一定の期間内に委託会社に対して異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を投資信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。

#### 運用報告書の交付

委託会社は、毎特定期間(原則として、毎年5月11日から11月10日まで、11月11日から翌年5月10日までとします。)終了後および償還時に、期中の運用経過等を記載した交付運用報告書を作成し、知られたる受益者に、販売会社を通じて交付します。

運用報告書(全体版)は、委託会社のホームページに掲載します。ただし、受益者から運用報告書(全体版)の請求があった場合には、これを交付します。

<http://www.okasan-am.jp>

## 公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.okasan-am.jp>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

## 信託事務の再信託

受託会社は、ファンドに係る信託事務の処理の一部について日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することができます。この場合、日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社は、再信託契約に基づいて所定の事務を行います。

## 関係法人との契約の更改等に関する手続等

### 販売会社との契約更改

委託会社は、販売会社との間の「投資信託受益権の取扱い等に関する契約（別の名称で同様の権利義務関係を規定する契約を含みます。）」に基づき、受益権の募集の取扱い等を販売会社に委託しています。

この契約の有効期間は、契約締結日から1年で、期間満了の3ヵ月前までに委託会社又は販売会社から別段の申し出が無いときは自動的に1年間更新され、その後も同様とします。

### 変更内容の開示

販売会社との契約又は投資信託約款を変更した場合において、委託会社に変更内容についてすみやかに開示する必要があると認めるときは、有価証券届出書の訂正届出書を関東財務局長に提出することにより、変更内容を開示します。

## 4【受益者の権利等】

### ファンドの受益権

受益権は、その取得申込口数に応じて、取得申込者に帰属します。

受益権は、信託の日時を異にすることにより差異を生ずることはありません。

### 収益分配金に対する請求権

受益者は、ファンドに係る収益分配金を持分に応じて請求する権利を有します。

収益分配金は、計算期間終了日から起算して、原則として、5営業日までに販売会社を通じて受益者に支払いを開始します。前記にかかわらず、分配金再投資コースのあるファンドで当該コースを申込んだ受益者に対しては、原則として、毎計算期間終了日の翌営業日に、収益分配金が販売会社に交付されます。販売会社は、受益者に対し、計算期間終了日の基準価額をもって収益分配金の再投資に係る受益権の売付を行います。

受益者が、収益分配金について支払い開始日から5年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金に係る決算日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該収益分配金に係る決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。）にお支払いします。また、分配金再投資コースの場合、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

### 償還金に対する請求権

受益者は、ファンドに係る償還金を持分に応じて請求する権利を有します。

償還金は、償還日(償還日が休業日の場合は翌営業日)から起算して、原則として、5営業日までに販売会社を通じて受益者に支払いを開始します。

受益者が、償還金について支払開始日から10年間その支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権に係る受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)にお支払いします。

#### 換金に係る権利

受益者は、委託会社に対して、解約請求を行う権利を有します。

#### 書類の閲覧権

受益者は、委託会社に対して、当該受益者に係る投資信託財産に関する書類の閲覧又は謄写を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

- 1.当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。  
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 2.当ファンドの計算期間は6ヵ月未満であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 3.当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第17特定期間(平成26年 5月13日から平成26年11月10日まで)の財務諸表について、東陽監査法人により監査を受けております。

#### 1【財務諸表】

## 【香川県応援ファンド】

## ( 1 ) 【貸借対照表】

( 単位：円 )

	第16特定期間末 (平成26年 5月12日現在)	第17特定期間末 (平成26年11月10日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	35,404,647	44,770,400
親投資信託受益証券	2,329,448,470	2,552,666,050
未収利息	29	12
流動資産合計	2,364,853,146	2,597,436,462
資産合計	2,364,853,146	2,597,436,462
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	12,611,892	12,314,022
未払解約金	-	5,229,500
未払受託者報酬	348,040	359,544
未払委託者報酬	4,437,485	4,584,198
その他未払費用	43,486	44,925
流動負債合計	17,440,903	22,532,189
負債合計	17,440,903	22,532,189
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	*1 2,522,378,465	*1 2,462,804,537
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金 ( )	174,966,222	112,099,736
( 分配準備積立金 )	163,551,748	156,397,575
元本等合計	2,347,412,243	2,574,904,273
純資産合計	*3 2,347,412,243	*3 2,574,904,273
負債純資産合計	2,364,853,146	2,597,436,462

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第16特定期間 自 平成25年11月12日 至 平成26年 5月12日	第17特定期間 自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
営業収益		
受取利息	8,547	5,590
有価証券売買等損益	126,639,132	338,217,580
営業収益合計	126,647,679	338,223,170
営業費用		
受託者報酬	1,003,398	1,053,579
委託者報酬	12,793,329	13,433,024
その他費用	125,371	131,630
営業費用合計	13,922,098	14,618,233
営業利益又は営業損失（ ）	112,725,581	323,604,937
経常利益又は経常損失（ ）	112,725,581	323,604,937
当期純利益又は当期純損失（ ）	112,725,581	323,604,937
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）	949,645	1,659,697
期首剰余金又は期首欠損金（ ）	253,948,074	174,966,222
剰余金増加額又は欠損金減少額	5,297,615	2,344,982
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	5,297,615	2,344,890
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	92
剰余金減少額又は欠損金増加額	95,660	5,674
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	95,660	5,674
分配金	+1 37,996,039	+1 37,218,590
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	174,966,222	112,099,736



## （ 3 ）【注記表】

（重要な会計方針に係る事項に関する注記）

期 別	第17特定期間 自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、親投資信託受益証券の基準価額に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い 当ファンドの計算期間は、6ヵ月未満であるため財務諸表を6ヵ月毎に作成しており、前特定期間末が休日のため、平成26年 5月13日から平成26年11月10日までを特定期間としております。

（貸借対照表に関する注記）

第16特定期間末 (平成26年 5月12日現在)	第17特定期間末 (平成26年11月10日現在)
*1. 当該特定期間の末日における受益権の総数 2,522,378,465口	*1. 当該特定期間の末日における受益権の総数 2,462,804,537口
2. 投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額 元本の欠損 174,966,222円	2. 投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額 元本の欠損
*3. 当該特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 0.9306円 (10,000口当たりの純資産額 9,306円)	*3. 当該特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 1.0455円 (10,000口当たりの純資産額 10,455円)

（損益及び剰余金計算書に関する注記）

第16特定期間 自 平成25年11月12日 至 平成26年 5月12日	第17特定期間 自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
*1. 分配金の計算過程 第46計算期間(平成25年11月12日～平成26年 1月10日) 費用控除後の配当等収A 11,238,589円 益額	*1. 分配金の計算過程 第49計算期間(平成26年 5月13日～平成26年 7月10日) 費用控除後の配当等収A 10,828,081円 益額

費用控除後・繰越欠損B	- 円	費用控除後・繰越欠損B	- 円
金補填後の有価証券売買等損益額		金補填後の有価証券売買等損益額	
収益調整金額 C	48,564,401円	収益調整金額 C	47,751,735円
分配準備積立金額 D	176,910,468円	分配準備積立金額 D	162,093,730円
当ファンドの分配対象E=A+B+C+D	236,713,458円	当ファンドの分配対象E=A+B+C+D	220,673,546円
収益額		収益額	
当ファンドの期末残存F	2,544,410,338口	当ファンドの期末残存F	2,499,711,038口
口数		口数	
10,000口当たり収益分G=E/F*10,000	930円	10,000口当たり収益分G=E/F*10,000	882円
配対象額		配対象額	
10,000口当たり分配金H	50円	10,000口当たり分配金H	50円
額		額	
収益分配金金額 I=F*H/10,000	12,722,051円	収益分配金金額 I=F*H/10,000	12,498,555円
第47計算期間(平成26年 1月11日～平成26年 3月10日)		第50計算期間(平成26年 7月11日～平成26年 9月10日)	
費用控除後の配当等収A	6,046,442円	費用控除後の配当等収A	11,048,838円
益額		益額	
費用控除後・繰越欠損B	- 円	費用控除後・繰越欠損B	- 円
金補填後の有価証券売買等損益額		金補填後の有価証券売買等損益額	
収益調整金額 C	48,373,145円	収益調整金額 C	47,430,704円
分配準備積立金額 D	174,574,371円	分配準備積立金額 D	159,216,364円
当ファンドの分配対象E=A+B+C+D	228,993,958円	当ファンドの分配対象E=A+B+C+D	217,695,906円
収益額		収益額	
当ファンドの期末残存F	2,532,419,202口	当ファンドの期末残存F	2,481,202,795口
口数		口数	
10,000口当たり収益分G=E/F*10,000	904円	10,000口当たり収益分G=E/F*10,000	877円
配対象額		配対象額	
10,000口当たり分配金H	50円	10,000口当たり分配金H	50円
額		額	
収益分配金金額 I=F*H/10,000	12,662,096円	収益分配金金額 I=F*H/10,000	12,406,013円
第48計算期間(平成26年 3月11日～平成26年 5月12日)		第51計算期間(平成26年 9月11日～平成26年11月10日)	
費用控除後の配当等収A	8,861,840円	費用控除後の配当等収A	12,012,953円
益額		益額	
費用控除後・繰越欠損B	- 円	費用控除後・繰越欠損B	- 円
金補填後の有価証券売買等損益額		金補填後の有価証券売買等損益額	
収益調整金額 C	48,181,351円	収益調整金額 C	47,081,536円
分配準備積立金額 D	167,301,800円	分配準備積立金額 D	156,698,644円
当ファンドの分配対象E=A+B+C+D	224,344,991円	当ファンドの分配対象E=A+B+C+D	215,793,133円
収益額		収益額	
当ファンドの期末残存F	2,522,378,465口	当ファンドの期末残存F	2,462,804,537口
口数		口数	
10,000口当たり収益分G=E/F*10,000	889円	10,000口当たり収益分G=E/F*10,000	876円
配対象額		配対象額	
10,000口当たり分配金H	50円	10,000口当たり分配金H	50円
額		額	
収益分配金金額 I=F*H/10,000	12,611,892円	収益分配金金額 I=F*H/10,000	12,314,022円

## （金融商品に関する注記）

## 1.金融商品の状況に関する事項

期 別	第16特定期間 自 平成25年11月12日 至 平成26年 5月12日	第17特定期間 自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
項 目		
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、主として、売買目的の有価証券を保有しております。保有する有価証券の詳細は、「(4) 附属明細表」に記載しております。これらは、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク、カントリーリスク及び流動性リスク等を有しております。その他、保有するコール・ローン等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドの委託会社の運用委員会において、運用に関する内規の制定及び改廃、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項の決定を行うほか、リスク管理部及びコンプライアンス部において、「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図について、法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認しております。また、運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行っております。	同左

## 2.金融商品の時価に関する事項

期 別	第16特定期間末 (平成26年 5月12日現在)	第17特定期間末 (平成26年11月10日現在)
項 目		

1. 貸借対照表額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	時価の算定方法は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。この他、コール・ローン等は短期間で決済され、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格を時価としております。	同左

## ( 関連当事者との取引に関する注記 )

第16特定期間 自 平成25年11月12日 至 平成26年 5月12日	第17特定期間 自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
該当事項はありません。	同左

## ( 重要な後発事象に関する注記 )

第17特定期間 自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
該当事項はありません。

## ( その他の注記 )

## 1. 元本の移動

第16特定期間末 (平成26年 5月12日現在)		第17特定期間末 (平成26年11月10日現在)	
投資信託財産に係る元本の状況		投資信託財産に係る元本の状況	
期首元本額	2,584,960,570円	期首元本額	2,522,378,465円
期中追加設定元本額	1,649,555円	期中追加設定元本額	585,146円
期中一部解約元本額	64,231,660円	期中一部解約元本額	60,159,074円

## 2. 有価証券関係

売買目的有価証券の最終の計算期間の損益に含まれた評価差額

第16特定期間末(平成26年 5月12日現在)

(単位:円)

種 類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	19,826,554
合計	19,826,554

第17特定期間末（平成26年11月10日現在）

（単位：円）

種 類	最終の計算期間の損益に含まれた評価差額
親投資信託受益証券	139,995,170
合計	139,995,170

### 3. デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

#### （４）【附属明細表】

##### 1. 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
親投資信託受益証券	日本円	香川県関連株マザーファンド	538,393,820	679,883,715	
		Jリート・マザーファンド	307,812,480	682,389,486	
		内外債券マザーファンド	705,083,723	1,190,392,849	
	計	銘柄数：3 組入時価比率：99.1%	1,551,290,023	2,552,666,050 100.0%	
合計			2,552,666,050		

(注)1. 比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

2. 親投資信託受益証券の券面総額欄には、口数を表示しております。

## 2.デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等、時価の状況表

該当事項はありません。

## (参考)

当ファンドは、「香川県関連株マザーファンド」、「内外債券マザーファンド」、「Jリート・マザーファンド」受益証券を主要投資対象としております。貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、当該マザーファンドの受益証券です。

マザーファンドの経理状況は参考情報であり、監査証明の対象ではありません。

## 香川県関連株マザーファンド

## 貸借対照表

(単位：円)

科 目	期 別	注記番 号	平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
			金額	金額
資産の部				
流動資産				
コール・ローン			19,798,693	20,777,419
株式			557,668,700	655,457,800
未収配当金			5,034,400	3,633,700
未収利息			16	5
流動資産合計			582,501,809	679,868,924
資産合計			582,501,809	679,868,924
負債の部				
流動負債				
流動負債合計			-	-
負債合計			-	-
純資産の部				
元本等				
元本		*1	559,709,047	538,393,820
剰余金				
剰余金又は欠損金( )			22,792,762	141,475,104
元本等合計			582,501,809	679,868,924
純資産合計		*2	582,501,809	679,868,924
負債純資産合計			582,501,809	679,868,924

## 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項 目	期 別	自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
1.有価証券の評価基準及び評価方法	株式	

2. 収益及び費用の計上基準	<p>移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は第一種金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。</p> <p>受取配当金 原則として、配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を、未だ確定していない場合には予想配当金額を計上しております。</p> <p>有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。</p>
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>計算期間の取扱い 当ファンドの計算期間は、香川県応援ファンドの特定期間に合わせるため、平成26年5月13日から平成26年11月10日までとなっております。</p>

## （貸借対照表に関する注記）

平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 559,709,047口	*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 538,393,820口
*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 1.0407円 (10,000口当たりの純資産額 10,407円)	*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 1.2628円 (10,000口当たりの純資産額 12,628円)

## （金融商品に関する注記）

## 1. 金融商品の状況に関する事項

期 別	自 平成25年11月12日 至 平成26年 5月12日	自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
1. 金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。	同左

2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、主として、売買目的の有価証券を保有しております。保有する有価証券の詳細は、「附属明細表」に記載しております。これらは、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等を有しております。その他、保有するコール・ローン等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドの委託会社の運用委員会において、運用に関する内規の制定及び改廃、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項の決定を行うほか、リスク管理部及びコンプライアンス部において、「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図について、法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認しております。また、運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行っております。	同左

## 2.金融商品の時価に関する事項

期 別 項 目	平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
1. 貸借対照表額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	時価の算定方法は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。この他、コール・ローン等は短期間で決済され、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格を時価としております。	同左

(その他の注記)

## 1.元本の移動



平成26年 5月12日現在	
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	平成25年11月12日
期首元本額	606,528,104円
期首より平成26年 5月12日までの追加設定元本額	- 円
期首より平成26年 5月12日までの一部解約元本額	46,819,057円
期末元本額	559,709,047円
平成26年 5月12日現在の元本の内訳（*）	
香川県応援ファンド	559,709,047円

平成26年11月10日現在	
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	平成26年 5月13日
期首元本額	559,709,047円
期首より平成26年11月10日までの追加設定元本額	- 円
期首より平成26年11月10日までの一部解約元本額	21,315,227円
期末元本額	538,393,820円
平成26年11月10日現在の元本の内訳（*）	
香川県応援ファンド	538,393,820円

\* は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託毎の元本額

## 2. 有価証券関係

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

平成26年 5月12日現在

（単位：円）

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	2,213,293
合計	2,213,293

平成26年11月10日現在

（単位：円）

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
株式	103,392,519
合計	103,392,519

## 3.デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

## 附属明細表

1.有価証券明細表  
株式

種類	通貨	銘柄	株数	評価額		備考
				単価	金額	
株式	日本円	ホクト	3,500	1,992.00	6,972,000	
		前田道路	7,000	1,710.00	11,970,000	
		四電工	27,000	401.00	10,827,000	
		協和エクシオ	8,300	1,344.00	11,155,200	
		日清製粉グループ本社	12,800	1,122.00	14,361,600	
		日和産業	7,000	203.00	1,421,000	
		明治ホールディングス	2,300	9,270.00	21,321,000	
		味の素	11,000	2,139.50	23,534,500	
		日清食品ホールディングス	3,600	5,840.00	21,024,000	
		シノプフーズ	8,000	533.00	4,264,000	
		倉敷紡績	30,000	185.00	5,550,000	
		王子ホールディングス	34,000	400.00	13,600,000	
		レンゴー	22,000	473.00	10,406,000	
		東亜合成	21,000	492.00	10,332,000	
		四国化成工業	25,000	790.00	19,750,000	
		三菱ケミカルホールディングス	40,000	565.30	22,612,000	
		大倉工業	42,000	392.00	16,464,000	
		レック	3,000	1,202.00	3,606,000	
		ユニ・チャーム	9,500	2,511.00	23,854,500	
		ブリヂストン	6,600	3,826.00	25,251,600	
		三ツ星ベルト	8,000	812.00	6,496,000	
		日本興業	5,000	182.00	910,000	
		ジェイ エフ イー ホールディングス	11,100	2,326.00	25,818,600	
		丸一鋼管	5,300	2,599.00	13,774,700	
		三菱マテリアル	45,000	343.00	15,435,000	
		タダノ	15,000	1,671.00	25,065,000	

	ジェイテクト	10,000	1,788.00	17,880,000	
	三菱電機	18,000	1,436.50	25,857,000	
	日本電気	59,000	381.00	22,479,000	
	パナソニック	20,800	1,418.00	29,494,400	
	アオイ電子	3,900	5,430.00	21,177,000	
	川崎重工業	50,000	457.00	22,850,000	
	南海プライウッド	5,000	416.00	2,080,000	
	四国電力	19,100	1,539.00	29,394,900	
	エディオン	10,000	788.00	7,880,000	
	D C Mホールディングス	12,000	728.00	8,736,000	
	三越伊勢丹ホールディングス	12,500	1,483.00	18,537,500	
	マルヨシセンター	1,000	390.00	390,000	
	イオン	20,800	1,126.00	23,420,800	
	百十四銀行	65,000	350.00	22,750,000	
	トモニホールディングス	44,000	479.00	21,076,000	
	穴吹興産	52,000	248.00	12,896,000	
	セーラー広告	1,500	227.00	340,500	
	K G情報	4,000	539.00	2,156,000	
	クリエアナブキ	700	410.00	287,000	
計	銘柄数：45			655,457,800	
	組入時価比率：96.4%			100.0%	
合計				655,457,800	

(注)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

#### 株式以外の有価証券

該当事項はありません。

#### 2. デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等、時価の状況表

該当事項はありません。

#### 内外債券マザーファンド

#### 貸借対照表

(単位：円)

科目	期別	注記番号	平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
			金額	金額
資産の部				
流動資産				
預金			10,182,734	5,188,868

科 目	期 別	注記番 号	平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
			金額	金額
コール・ローン			148,626,294	32,412,512
国債証券			3,043,820,565	2,786,777,087
派生商品評価勘定			-	416,926
未収入金			-	290,496,639
未収利息			32,993,841	38,577,178
前払費用			5,169,464	2,846,904
流動資産合計			3,240,792,898	3,156,716,114
資産合計			3,240,792,898	3,156,716,114
負債の部				
流動負債				
派生商品評価勘定			194,007	8,836
未払金			92,471,306	72,714,392
流動負債合計			92,665,313	72,723,228
負債合計			92,665,313	72,723,228
純資産の部				
元本等				
元本		*1	2,062,332,879	1,826,656,745
剰余金				
剰余金又は欠損金（ ）			1,085,794,706	1,257,336,141
元本等合計			3,148,127,585	3,083,992,886
純資産合計		*2	3,148,127,585	3,083,992,886
負債純資産合計			3,240,792,898	3,156,716,114

## 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

期 別	自 平成26年 5月13日	至 平成26年11月10日
項 目		
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	国債証券 個別法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）、又は価格情報会社の提供する価額で評価しております。ただし、償還日までの残存期間が1年以内の債券について、価格変動性が限定的で、償却原価法による評価が合理的であり、かつ受益者の利益を害しないと委託会社が判断した場合は、償却原価法によって評価しております。	
2. デリバティブの評価基準及び評価方法	外国為替予約取引 個別法に基づき、原則として、計算日の対顧客先物売買相場の仲値により計算しております。	
3. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算 原則として、わが国における計算日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。	
4. 収益及び費用の計上基準	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。  為替差損益 約定日基準で計上しております。	

5.その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建資産等の会計処理 「投資信託財産の計算に関する規則」第60条及び第61条に基づいております。</p> <p>計算期間の取扱い 当ファンドの計算期間は、香川県応援ファンドの特定期間に合わせるため、平成26年5月13日から平成26年11月10日までとなっております。</p>
---------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## (貸借対照表に関する注記)

平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 2,062,332,879口	*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 1,826,656,745口
*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 1.5265円 (10,000口当たりの純資産額 15,265円)	*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 1.6883円 (10,000口当たりの純資産額 16,883円)

## (金融商品に関する注記)

## 1.金融商品の状況に関する事項

期別 項目	自 平成25年11月12日 至 平成26年 5月12日	自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、主として、売買目的の有価証券を保有しております。保有する有価証券の詳細は、「附属明細表」に記載しております。これらは、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク等の市場リスク、信用リスク、カントリーリスク及び流動性リスク等を有しております。その他、保有するコール・ローン等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。 なお、当ファンドでは、デリバティブ取引として、為替変動リスクを回避し、安定的な利益の確保を図ることを目的とした為替予約取引を利用しております。為替予約取引の主要なリスクは、為替相場の変動による価格変動リスクです。	同左

3. 金融商品に係るリスク管理体制	<p>当ファンドの委託会社の運用委員会において、運用に関する内規の制定及び改廃、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項の決定を行うほか、リスク管理部及びコンプライアンス部において、「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図について、法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認しております。また、運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行っております。</p> <p>なお、デリバティブ取引の管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内規定を制定しており、デリバティブ取引の執行は、運用担当者が運用部長及び担当役員の承認を得て行っております。</p>	同左
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----

## 2. 金融商品の時価に関する事項

期 別	平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
1. 貸借対照表額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	時価の算定方法は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。この他、コール・ローン等は短期間で決済され、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格を時価としております。	同左
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	デリバティブ取引の時価に関する契約額等については、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額、又は計算上の想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。	同左

## （その他の注記）

## 1. 元本の移動

平成26年 5月12日現在	
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	平成25年11月12日
期首元本額	2,155,065,078円
期首より平成26年 5月12日までの追加設定元本額	109,891,103円
期首より平成26年 5月12日までの一部解約元本額	202,623,302円
期末元本額	2,062,332,879円
平成26年 5月12日現在の元本の内訳（*）	
新財産活用ファンド（愛称 子孫繁栄）	21,823,222円
三重県応援ファンド	613,230,220円
福井県応援ファンド	149,637,185円
香川県応援ファンド	723,712,468円
山口県応援ファンド	553,929,784円

平成26年11月10日現在	
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	平成26年 5月13日
期首元本額	2,062,332,879円
期首より平成26年11月10日までの追加設定元本額	153,391,532円
期首より平成26年11月10日までの一部解約元本額	389,067,666円
期末元本額	1,826,656,745円
平成26年11月10日現在の元本の内訳（*）	
新財産活用ファンド（愛称 子孫繁栄）	- 円
三重県応援ファンド	587,102,516円
福井県応援ファンド	148,488,499円
香川県応援ファンド	705,083,723円
山口県応援ファンド	385,982,007円

\* は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託毎の元本額

## 2. 有価証券関係

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

平成26年 5月12日現在

（単位：円）

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	24,210,540

合計	24,210,540
----	------------

平成26年11月10日現在

(単位：円)

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
国債証券	70,441,566
合計	70,441,566

## 3.デリバティブ取引関係

取引の時価等に関する事項

平成26年 5月12日現在

(単位：円)

区分	種 類	契約額等		時 価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外 の取引	為替予約取引 買建				
	ユーロ	82,651,295	-	82,457,288	194,007
合計		82,651,295	-	82,457,288	194,007

平成26年11月10日現在

(単位：円)

区分	種 類	契約額等		時 価	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外 の取引	為替予約取引 買建				
	アメリカドル	643,995	-	643,218	777
	オーストラリアドル	6,433,521	-	6,425,462	8,059
	売建				
	カナダドル	76,229,024	-	76,223,131	5,893
	ユーロ	158,614,387	-	158,203,354	411,033



合計	241,920,927	-	241,495,165	408,090
----	-------------	---	-------------	---------

## (注)時価の算定方法

## ・ 為替予約取引

1. 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されている外貨については以下のように評価しております。

(1) 計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物相場が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

(2) 計算期間末日において当該日の対顧客先物相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

計算期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算したレートを用いております。

計算期間末日に当該日を超える対顧客先物相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物相場の仲値を用いております。

2. 計算期間末日に対顧客先物相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客相場の仲値で評価しております。

## 附属明細表

1. 有価証券明細表  
株式

該当事項はありません。

## 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考	
国債証券	アメリカドル	TREASURY BOND	1,000,000.00	1,380,937.50		
		TREASURY BOND	400,000.00	572,375.00		
		TREASURY BOND	500,000.00	558,437.50		
		TREASURY NOTE	1,000,000.00	1,094,687.50		
		TREASURY NOTE	1,000,000.00	1,099,687.50		
		TREASURY NOTE	1,000,000.00	1,094,062.50		
		TREASURY NOTE	1,000,000.00	1,102,656.25		
		TREASURY NOTE	3,000,000.00	3,218,437.50		
	計	銘柄数：8	8,900,000.00	10,121,281.25		
		組入時価比率：37.5%		(1,157,469,723)		
				41.5%		
	カナダドル	カナダドル	CANADA GOVERNMENT	500,000.00	522,965.00	
			CANADA GOVERNMENT	1,000,000.00	1,481,750.00	
		計	銘柄数：2	1,500,000.00	2,004,715.00	
		組入時価比率：6.6%		(202,255,696)		
			7.3%			

ユーロ	BUNDES REPUB	500,000.00	597,100.00	
	BUNDES REPUB	1,000,000.00	1,497,650.00	
	BUNDES REPUB	500,000.00	772,700.00	
	FRANCE GOVERNMENT	700,000.00	819,140.00	
	FRANCE GOVERNMENT	400,000.00	471,820.00	
	FRANCE GOVERNMENT	500,000.00	583,325.00	
	FRANCE GOVERNMENT	500,000.00	731,225.00	
	計	銘柄数：7 組入時価比率：25.3%	4,100,000.00	5,472,960.00 (779,404,233) 28.0%
イギリスポンド	U.K. TREASURY	500,000.00	565,425.00	
	U.K. TREASURY	800,000.00	928,920.00	
	U.K. TREASURY	500,000.00	557,725.00	
	U.K. TREASURY	200,000.00	284,760.00	
	計	銘柄数：4 組入時価比率：13.8%	2,000,000.00	2,336,830.00 (424,158,013) 15.2%
オーストラリアドル	AUSTRALIAN GOVT	500,000.00	543,405.00	
	AUSTRALIAN GOVT	1,500,000.00	1,618,080.00	
	AUSTRALIAN GOVT	100,000.00	98,495.00	
	計	銘柄数：3 組入時価比率：7.2%	2,100,000.00	2,259,980.00 (223,489,422) 8.0%
合計			2,786,777,087 (2,786,777,087)	

(注)1. 小計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

2. 合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

3. 比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

## 2. デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等、時価の状況表

「(その他の注記)3. デリバティブ取引関係」に表示しております。

## Jリート・マザーファンド

### 貸借対照表

(単位：円)

科 目	期 別	注記番 号	平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
			金額	金額
資産の部				
流動資産				
金銭信託			875,551	146,062
コール・ローン			211,905,467	908,151,527

科 目	期 別	注記番 号	平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
			金額	金額
投資証券			40,167,095,450	23,496,679,500
未収入金			532,675,659	75,062,557
未収配当金			318,178,322	162,106,524
未収利息			174	248
流動資産合計			41,230,730,623	24,642,146,418
資産合計			41,230,730,623	24,642,146,418
負債の部				
流動負債				
未払金			8,781,202	348,168,707
未払解約金			200,000,000	-
流動負債合計			208,781,202	348,168,707
負債合計			208,781,202	348,168,707
純資産の部				
元本等				
元本		*1	21,581,212,074	10,958,434,322
剰余金				
剰余金又は欠損金（ ）			19,440,737,347	13,335,543,389
元本等合計			41,021,949,421	24,293,977,711
純資産合計		*2	41,021,949,421	24,293,977,711
負債純資産合計			41,230,730,623	24,642,146,418

## 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項 目	期 別	自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
1. 有価証券の評価基準及び評価方法		投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価に当たっては、金融商品取引所における最終相場（最終相場のないものについては、それに準ずる価額）、又は第一種金融商品取引業者等から提示される気配相場に基づいて評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準		受取配当金 原則として、配当落ち日において、その金額が確定している場合には当該金額を、未だ確定していない場合には予想配当金額を計上しております。  有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項		計算期間の取扱い 当ファンドの計算期間は、香川県応援ファンドの特定期間に合わせるため、平成26年 5月13日から平成26年11月10日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
---------------	---------------

*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 21,581,212,074口	*1. 当該計算期間の末日における受益権の総数 10,958,434,322口
*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 1.9008円 (10,000口当たりの純資産額 19,008円)	*2. 当該計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たりの純資産額 2.2169円 (10,000口当たりの純資産額 22,169円)

## (金融商品に関する注記)

## 1.金融商品の状況に関する事項

期 別	自 平成25年11月12日 至 平成26年 5月12日	自 平成26年 5月13日 至 平成26年11月10日
項 目		
1.金融商品に対する取組方針	当ファンドは証券投資信託であり、信託約款に規定する「運用の基本方針」に従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用することを目的としております。	同左
2.金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドは、主として、売買目的の有価証券を保有しております。保有する有価証券の詳細は、「附属明細表」に記載しております。これらは、価格変動リスク等の市場リスク、信用リスク及び流動性リスク等を有しております。その他、保有するコール・ローン等の金銭債権及び金銭債務につきましては、信用リスク等を有しております。	同左
3.金融商品に係るリスク管理体制	当ファンドの委託会社の運用委員会において、運用に関する内規の制定及び改廃、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項の決定を行うほか、リスク管理部及びコンプライアンス部において、「運用の指図に関する検証規程」に基づき、投資信託財産の運用の指図について、法令、投資信託協会諸規則、社内規程及び投資信託約款に定める運用の指図に関する事項の遵守状況を確認しております。また、運用分析会議におけるファンドの運用パフォーマンスの分析・検証・評価や、売買分析会議におけるファンドの組入有価証券の評価損率や格付状況、有価証券売買状況や組入状況の報告等により、全社的に投資リスクを把握し管理を行っております。	同左

## 2.金融商品の時価に関する事項

期 別	平成26年 5月12日現在	平成26年11月10日現在
項 目		
1. 貸借対照表額、時価及び差額	貸借対照表上の金融商品は原則として全て時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	時価の算定方法は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載しております。この他、コール・ローン等は短期間で決済され、時価は帳簿価格と近似していることから、当該帳簿価格を時価としております。	同左

## (その他の注記)

## 1. 元本の移動

平成26年 5月12日現在	
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	平成25年11月12日
期首元本額	15,865,699,630円
期首より平成26年 5月12日までの追加設定元本額	8,355,639,052円
期首より平成26年 5月12日までの一部解約元本額	2,640,126,608円
期末元本額	21,581,212,074円
平成26年 5月12日現在の元本の内訳（*）	
日本Jリートオープン（毎月分配型）	20,261,936,272円
新財産活用ファンド（愛称 子孫繁栄）	7,619,116円
三重県応援ファンド	264,166,625円
福井県応援ファンド	68,070,920円
香川県応援ファンド	337,864,154円
世界9資産分散ファンド（投資比率変動型）	66,184,037円
Jリートファンド（SMA専用）	3,865,332円
円ヘッジソブリン/Jリート インカムオープン（毎月決算型）	540,855,111円
日本Jリートオープン（1年決算型）	30,650,507円

平成26年11月10日現在	
投資信託財産に係る元本の状況	
期首	平成26年 5月13日
期首元本額	21,581,212,074円
期首より平成26年11月10日までの追加設定元本額	443,114,113円
期首より平成26年11月10日までの一部解約元本額	11,065,891,865円
期末元本額	10,958,434,322円

平成26年11月10日現在の元本の内訳（＊）	
日本Jリートオープン（毎月分配型）	9,763,193,445円
新財産活用ファンド（愛称 子孫繁栄）	- 円
三重県応援ファンド	242,930,804円
福井県応援ファンド	65,578,770円
香川県応援ファンド	307,812,480円
世界9資産分散ファンド（投資比率変動型）	45,682,219円
Jリートファンド（SMA専用）	261,427円
円ヘッジソブリン/Jリート インカムオープン（毎月決算型）	496,444,543円
日本Jリートオープン（1年決算型）	36,530,634円

＊は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託毎の元本額

## 2. 有価証券関係

売買目的有価証券の当計算期間の損益に含まれた評価差額

平成26年 5月12日現在

（単位：円）

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資証券	1,601,512,175
合計	1,601,512,175

平成26年11月10日現在

（単位：円）

種 類	当計算期間の損益に含まれた評価差額
投資証券	3,479,954,504
合計	3,479,954,504

## 3. デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

附属明細表

## 1. 有価証券明細表

## 株式

該当事項はありません。

## 株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	単位数	評価額	備考
投資証券	日本円	日本アコモデーションファンド投資法人 投資証券	320	125,920,000	
		M I Dリート投資法人 投資証券	165	45,259,500	
		森ヒルズリート投資法人 投資証券	5,029	779,997,900	
		野村不動産レジデンシャル投資法人 投資証券	100	61,000,000	
		産業ファンド投資法人 投資証券	597	602,970,000	
		大和ハウスリート投資法人 投資証券	830	441,560,000	
		アドバンス・レジデンス投資法人 投資証券	3,533	965,922,200	
		ケネディクス・レジデンシャル投資法人 投資証券	2,077	594,437,400	
		アクティブ・プロパティーズ投資法人 投資証券	720	671,760,000	
		G L P投資法人 投資証券	6,060	812,646,000	
		コンフォリア・レジデンシャル投資法人 投資証券	1,880	384,648,000	
		日本プロロジスリート投資法人 投資証券	4,730	1,202,839,000	
		野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	3,677	537,945,100	
		星野リゾート・リート投資法人 投資証券	389	451,629,000	
		イオンリート投資法人 投資証券	3,308	508,108,800	
		ヒューリックリート投資法人 投資証券	2,281	376,821,200	
		日本リート投資法人 投資証券	462	156,156,000	
		インベスコ・オフィス・ジェイリート投資法人 投資証券	660	66,066,000	
		日本ヘルスケア投資法人 投資証券	20	5,276,000	
		日本ビルファンド投資法人 投資証券	2,730	1,575,210,000	
ジャパンリアルエステイト投資法人 投資証券	2,533	1,423,546,000			
日本リテールファンド投資法人 投資証券	4,400	957,440,000			
オリックス不動産投資法人 投資証券	6,104	951,613,600			

	日本プライムリアルティ投資法人 投資証券	3,300	1,311,750,000	
	プレミア投資法人 投資証券	60	27,600,000	
	東急リアル・エステート投資法人 投資証券	1,620	241,866,000	
	グローバル・ワン不動産投資法人 投資証券	160	55,120,000	
	野村不動産オフィスファンド投資法 人 投資証券	15	7,035,000	
	ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	6,577	1,199,644,800	
	森トラスト総合リート投資法人 投 資証券	2,460	469,122,000	
	インヴィンシブル投資法人 投資証 券	18,866	728,227,600	
	フロンティア不動産投資法人 投資 証券	410	204,180,000	
	平和不動産リート投資法人 投資証 券	440	39,688,000	
	日本ロジスティクスファンド投資法 人 投資証券	2,300	576,610,000	
	福岡リート投資法人 投資証券	1,285	255,586,500	
	ケネディクス・オフィス投資法人 投資証券	1,600	953,600,000	
	積水ハウス・S I レジデンシャル 投資法人 投資証券	665	73,083,500	
	いちご不動産投資法人 投資証券	1,680	134,568,000	
	大和証券オフィス投資法人 投資証 券	1,120	657,440,000	
	阪急リート投資法人 投資証券	50	33,400,000	
	スタートプロシード投資法人 投資 証券	1,766	313,994,800	
	トップリート投資法人 投資証券	40	17,940,000	
	大和ハウス・レジデンシャル投資法 人 投資証券	502	242,968,000	
	ジャパン・ホテル・リート投資法 人 投資証券	14,023	1,004,046,800	
	日本賃貸住宅投資法人 投資証券	8,341	628,077,300	
	ジャパンエクセレント投資法人 投 資証券	4,337	622,359,500	
計	銘柄数：46 組入時価比率：96.7%	124,222	23,496,679,500	100.0%
合計			23,496,679,500	

(注)1.比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

## 2.デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等、時価の状況表

該当事項はありません。





## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

（平成26年11月28日現在）

## 香川県応援ファンド

資産総額	2,671,553,660円
負債総額	1,551,068円
純資産総額（ - ）	2,670,002,592円
発行済数量	2,436,076,280口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.0960円

## （参考）香川県関連株マザーファンド

資産総額	709,087,767円
負債総額	円
純資産総額（ - ）	709,087,767円
発行済数量	538,393,820口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.3170円

## （参考）内外債券マザーファンド

資産総額	3,139,305,259円
負債総額	円
純資産総額（ - ）	3,139,305,259円
発行済数量	1,788,386,017口
1単位当たり純資産額（ / ）	1.7554円

## （参考）Jリート・マザーファンド

資産総額	26,545,675,111円
負債総額	13,133,306円
純資産総額（ - ）	26,532,541,805円
発行済数量	11,150,426,218口
1単位当たり純資産額（ / ）	2.3795円

#### 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

名義書換についてその手続、取扱場所、取次所、代理人の名称及び住所並びに手数料

該当事項はありません。

受益者等に対する特典

該当事項はありません。

内国投資信託受益証券の譲渡制限の内容

該当事項はありません。

受益権について

ファンドの受益権は、振替制度における振替受益権であるため、委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

前項の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

受益権の再分割

委託会社は、受託会社と協議のうえ、社債、株式等の振替に関する法律に定めるところにしたがい、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

質権口記載又は記録の受益権の取扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権に係る収益分配金の支払い、解約請求の受付、解約金および償還金の支払い等については、投資信託約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

## 第二部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

（平成26年11月末日現在）

（1）資本金の額	10億円
会社が発行する株式の総数	2,600,000株
発行済株式の総数	825,000株
最近5年間における主な資本金の額の増減	なし

#### （2）委託会社の機構

##### 委託会社の意思決定機構

委託会社は、12名以内で構成される取締役会により運営されます。

取締役は、委託会社の株主であることを要しません。

取締役は、株主総会において株主によって選任され、その任期は選任後2年以内に終了する事業年度の内最終のものに関する定時株主総会の終結のときまでとします。

取締役会は、社長1名を選定するほか、会長、副社長、専務取締役、および常務取締役を若干名選任することができます。また、取締役会は取締役の中から代表取締役を若干名選定することができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として、社長が招集します。取締役会の議長は、原則として、社長がこれにあたります。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役の過半数が出席したうえで、出席した取締役の過半数をもって決めます。

##### 運用の意思決定機構

運用委員会は、月1回、運用本部で開催する「ストラテジー会議」で策定された投資環境分析と運用の基本方針案に基づいて検討を行い、運用の基本方針を決定します。

また、運用に関する内規の制定及び改廃のほか、運用ガイドライン等運用のリスク管理に関する事項を決定します。

運用戦略会議は、月1回、ファンドマネージャーより運用委員会で決定された運用の基本方針に基づいた個別ファンドの具体的な投資戦略が報告され、その内容について検討を行います。

ファンドマネージャーは、運用戦略会議で検討された投資戦略に基づき、ファンド毎に具体的な運用計画を策定し、運用計画書・運用実施計画書に基づいて、運用の指図を行います。

投資調査部は、国内外のマクロ経済・セミマクロ経済の調査・分析、市場環境の分析、企業の調査・分析等を行い、ファンドマネージャーに情報提供を行うことで、運用をサポートします。

運用分析会議は、月1回、運用のパフォーマンス向上、運用の適正性の確保、及び運用のリスク管理に資することを目的に、個別ファンドの運用パフォーマンスを分析・検証・評価し、運用本部にフィードバックを行います。

売買分析会議は、月1回、運用財産に係る運用の適切性確保に資することを目的にファンドの有価証券売買状況や組入れ状況など、日々、リスク管理部、トレーディング部が行っている運用の指図に関するチェック状況の報告・指摘を行います。議長は会議の結果を取締役会へ報告します。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

当社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として証券投資信託の設定を行うとともに、「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者として、その運用（投資運用業）及びその受益権の募集又は私募（第二種金融商品取引業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資一任契約にかかる投資運用業、投資助言・代理業を行っています。

平成26年11月末日現在、委託会社の運用する証券投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除く。）

種類	本数（本）	純資産総額(億円)
追加型株式投資信託	156	13,569
追加型公社債投資信託	16	2,235
単位型株式投資信託	38	1,167
単位型公社債投資信託	1	17
合計	211	16,989

純資産総額について、億円未満を切り捨てているため、合計と合わない場合があります。

## 3【委託会社等の経理状況】

(1) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

なお、当事業年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」（平成24年9月21日内閣府令第61号）附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

(2) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当事業年度（自平成25年4月1日至平成26年3月31日）の財務諸表について、東陽監査法人の監査を受けております。

(3) 当社の中間財務諸表は「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）、ならびに同規則第38条及び第57条の規定に基づいて「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

なお、中間財務諸表の金額については、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。

(4) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当中間会計期間（自平成26年4月1日至平成26年9月30日）の中間財務諸表について、東陽監査法人の中間監査を受けております。

### (1)【貸借対照表】

(単位：千円)

前事業年度 (平成25年3月31日現在)	当事業年度 (平成26年3月31日現在)
-------------------------	-------------------------

資産の部

<b>流動資産</b>			
現金及び預金		6,106,221	8,848,385
有価証券		3,199,988	1,099,945
未収委託者報酬		743,347	1,092,403
未収運用受託報酬		148,616	33,673
未収投資助言報酬		5,609	14,381
前払費用		30,946	46,764
未収収益		121	55,492
繰延税金資産		59,846	47,866
その他の流動資産		2,899	349
流動資産合計		10,297,596	11,239,262
<b>固定資産</b>			
<b>有形固定資産</b>			
建物	1	30,613	25,531
器具備品	1	113,458	98,755
有形固定資産合計		144,072	124,287
<b>無形固定資産</b>			
ソフトウェア		242	5,187
電話加入権		2,122	2,122
無形固定資産合計		2,364	7,310
<b>投資その他の資産</b>			
投資有価証券		1,485,543	1,996,148
親会社株式		1,633,632	1,605,912
長期差入保証金		138,067	122,837
その他		29,225	26,705
貸倒引当金		17,510	14,510
投資その他の資産合計		3,268,958	3,737,093
固定資産合計		3,415,395	3,868,690
資産合計		13,712,992	15,107,953

	前事業年度 (平成25年3月31日現在)	当事業年度 (平成26年3月31日現在)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
預り金	20,437	7,217
未払金	460,362	642,435
未払収益分配金	60	43
未払償還金	3,795	3,795
未払手数料	352,362	530,103
その他未払金	104,144	108,494
未払費用	277,360	284,894
未払法人税等	135,348	398,764
未払消費税等	41,206	89,994
流動負債合計	934,715	1,423,307
<b>固定負債</b>		
退職給付引当金	253,736	208,391
役員退職慰労引当金	29,850	36,470
繰延税金負債	329,085	366,717
資産除去債務	32,175	32,728

長期未払金	15,683	7,815
固定負債合計	660,531	652,123
負債合計	1,595,246	2,075,431
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金		
資本準備金	566,500	566,500
資本剰余金合計	566,500	566,500
利益剰余金		
利益準備金	179,830	179,830
その他利益剰余金		
別途積立金	5,718,662	5,718,662
繰越利益剰余金	3,830,629	4,706,843
利益剰余金合計	9,729,121	10,605,335
株主資本合計	11,295,621	12,171,835
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	822,124	860,687
評価・換算差額等合計	822,124	860,687
純資産合計	12,117,745	13,032,522
負債・純資産合計	13,712,992	15,107,953

## ( 2 ) 【損益計算書】

( 単位：千円 )

	前事業年度 ( 自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日 )	当事業年度 ( 自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日 )
営業収益		
委託者報酬	9,375,527	12,266,731
運用受託報酬	172,528	58,040
投資助言報酬	17,281	23,354
営業収益合計	9,565,338	12,348,126
営業費用		
支払手数料	5,049,257	6,294,536
広告宣伝費	245,879	306,596
公告費	250	78
受益権管理費	11,634	13,178
調査費	1,205,647	1,688,690
調査費	284,730	298,195
委託調査費	920,917	1,390,495
委託計算費	223,541	271,733
営業雑経費	224,886	267,619
通信費	48,257	49,197
印刷費	152,770	172,416
諸経費	12,246	33,929
協会費	8,351	8,520
諸会費	3,261	3,557
営業費用合計	6,961,096	8,842,433

一般管理費		
給料	1,230,336	1,422,540
役員報酬	153,361	162,372
給料・手当	1,076,974	1,260,168
交際費	18,065	19,202
寄付金	41,841	58,711
旅費交通費	48,965	54,386
租税公課	22,377	25,080
不動産賃借料	193,493	180,329
退職給付費用	152,263	54,744
役員退職慰労引当金繰入	5,870	6,660
固定資産減価償却費	36,468	29,475
諸経費	285,230	327,126
一般管理費合計	2,034,913	2,178,257
営業利益	569,328	1,327,435

	前事業年度		当事業年度	
	(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
営業外収益				
受取配当金	1	18,795	1	118,222
有価証券利息		3,326		1,527
受取利息		1,294		819
約款時効収入		13		21
投資有価証券売却益				121
賞与引当金戻入		17,239		
雑益		365		12,245
営業外収益合計		41,035		132,958
営業外費用				
時効後返還金		962		
信託財産負担金		795		712
固定資産除却損	2	15	2	834
雑損		35		388
営業外費用合計		1,808		1,935
経常利益		608,554		1,458,458
特別利益				
投資有価証券売却益		54,630		
投資有価証券償還益		30,325		48,956
特別利益合計		84,955		48,956
特別損失				
投資有価証券償還損		32,247		47,058
投資有価証券評価損	3	32,860		
特別損失合計		65,108		47,058
税引前当期純利益		628,401		1,460,356
法人税、住民税及び事業税		280,782		522,708
法人税等調整額		26,513		28,433
法人税等合計		254,268		551,142
当期純利益		374,132		909,213



## （３）【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本 合計	その他 有価証 券評価 差額金	評価・ 換算差 額等合 計		
		資本準 備金	資本剰 余金合 計	利益準 備金	その他利益剰余金						利益剰余 金合計
				別途積立 金	繰越利益 剰余金						
当期首残高	1,000,000	566,500	566,500	179,830	5,718,662	3,489,496	9,387,988	10,954,488	77,941	77,941	11,032,429
当期変動額											
剰余金の 配当						33,000	33,000	33,000			33,000
当期純利 益						374,132	374,132	374,132			374,132
株主資本 以外の項 目の事業 年度中の 変動額 (純額)									744,183	744,183	744,183
当期変動額 合計						341,132	341,132	341,132	744,183	744,183	1,085,315
当期末残高	1,000,000	566,500	566,500	179,830	5,718,662	3,830,629	9,729,121	11,295,621	822,124	822,124	12,117,745

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本 合計	その他 有価証 券評価 差額金	評価・ 換算差 額等合 計		
		資本準 備金	資本剰 余金合 計	利益準 備金	その他利益剰余金						利益剰余 金合計
				別途積立 金	繰越利益 剰余金						
当期首残高	1,000,000	566,500	566,500	179,830	5,718,662	3,830,629	9,729,121	11,295,621	822,124	822,124	12,117,745
当期変動額											
剰余金の 配当						33,000	33,000	33,000			33,000
当期純利 益						909,213	909,213	909,213			909,213

株主資本 以外の項 目の事業 年度中の 変動額 (純額)									38,563	38,563	38,563
当期変動額 合計					876,213	876,213	876,213	38,563	38,563	914,777	
当期末残高	1,000,000	566,500	566,500	179,830	5,718,662	4,706,843	10,605,335	12,171,835	860,687	860,687	13,032,522

## 重要な会計方針

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### その他有価証券

##### 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定）

##### 時価のないもの

総平均法による原価法

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産

定率法により償却しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 15年

器具備品 4～15年

#### (2) 無形固定資産

定額法により償却しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）に基づく定額法により償却しております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、計上しております。

数理計算上の差異については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数（5年）による定額法により発生翌期から費用処理することとしております。

#### (3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社内規に基づく期末要支給見積額を計上しております。

### 4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## [注記事項]

### (貸借対照表関係)

#### 1有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
建物	49,838千円	54,920千円
器具備品	160,968 "	142,553 "
計	210,807 "	197,474 "

## (損益計算書関係)

1各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
受取配当金	16,310千円	92,430千円

2固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
器具備品	15千円	834千円

3投資有価証券評価損の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
投資有価証券評価損	<p>投資先会社の財政状態及び業績等を勘案した結果、投資有価証券評価損32,860千円を特別損失として計上しております。</p> <p>なお、当該評価損は過年度に計上しておりました投資損失引当金90,000千円の戻入益と投資有価証券評価損122,860千円を相殺したものです。</p>	

## (株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末
普通株式(株)	825,000			825,000

## 2. 剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月25日 定時株主総会	普通株式	33,000	40	平成24年3月31日	平成24年6月26日

## 3. 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	配当金の 原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
----	-------	----------------	------------	-----------------	-----	-------

平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	33,000	利益剰余金	40	平成25年3月31日	平成25年6月26日
----------------------	------	--------	-------	----	------------	------------

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

### 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当事業年度増加	当事業年度減少	当事業年度末
普通株式（株）	825,000			825,000

### 2. 剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	33,000	40	平成25年3月31日	平成25年6月26日

### 3. 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の 総額(千円)	配当金の 原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成26年6月24日 定時株主総会	普通株式	41,250	利益剰余金	50	平成26年3月31日	平成26年6月25日

## （金融商品関係）

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### （1）金融商品に対する取組方針

当社は、金融商品取引法に定める投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業を営んでおります。これらの事業を当社では、自己資金で行っております。

一方、資金運用については、短期的な預金及び債券、投資有価証券での運用を行っております。なお、デリバティブ取引は行っておりません。

#### （2）金融商品の内容及びそのリスク

当社が保有する主な金融資産は現金及び預金、有価証券、未収委託者報酬、投資有価証券及び親会社株式であります。

預金は預入先金融機関の信用リスクに晒されております。また有価証券、投資有価証券及び親会社株式は発行体の信用リスクやマーケットリスク等に晒されております。また、未収委託者報酬は投資信託財産中から当社（委託者）が得られる報酬であり、未収であるものであります。

金融負債の主なものは、未払金（未払手数料）、未払法人税等であります。未払金（未払手数料）は委託者報酬中から当社が販売会社に支払うべき手数料であり、未払いのものであります。

#### （3）金融商品に係るリスク管理体制

当社は経営の健全化及び経営資源の効率化を目的として、リスク管理体制の強化を図り、適切なリスク・コントロールに努めております。金融資産に関わる信用リスク、マーケットリスク等を管理するため、社内規程等に従い、ポジション枠や与信枠等の適切な管理に努めております。

### 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注2）参照）。

前事業年度（平成25年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	6,106,221	6,106,221	
(2)有価証券	3,199,988	3,199,988	
(3)未収委託者報酬	743,347	743,347	
(4)投資有価証券	936,443	936,443	
(5)親会社株式	1,633,632	1,633,632	
(6)未払金（未払手数料）	352,362	352,362	
(7)未払法人税等	135,348	135,348	

当事業年度（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	8,848,385	8,848,385	
(2)有価証券	1,099,945	1,099,945	
(3)未収委託者報酬	1,092,403	1,092,403	
(4)投資有価証券	1,415,148	1,415,148	
(5)親会社株式	1,605,912	1,605,912	
(6)未払金（未払手数料）	530,103	530,103	
(7)未払法人税等	398,764	398,764	

## （注1）金融商品の時価の算定方法

（1）現金及び預金、（3）未収委託者報酬、（6）未払金（未払手数料）、（7）未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

（2）有価証券、（4）投資有価証券、（5）親会社株式

これらの時価について、上場株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は日本証券業協会が公表する価格等、投資信託は公表されている基準価額等によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

## （注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

（単位：千円）

区分	前事業年度 （平成25年3月31日）	当事業年度 （平成26年3月31日）
非上場株式	549,100	581,000

非上場株式については、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「（4）投資有価証券」には含めておりません。

## （注3）金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成25年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超

現金及び預金	6,106,221			
未収委託者報酬	743,347			
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの その他	3,199,988	568,739	4,720	
合計	10,049,556	568,739	4,720	

当事業年度（平成26年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	8,848,385			
未収委託者報酬	1,092,403			
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの その他	1,099,945	566,135	338,074	
合計	11,040,733	566,135	338,074	

（有価証券関係）

## 1. その他有価証券

前事業年度（平成25年3月31日）

（単位：千円）

区分	種類	貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,893,815	618,311	1,275,503
	(2) 債券 国債・地方債 等 社債 その他	2,699,445	2,698,898	546
	(3) その他	341,998	291,226	50,772
小計		4,935,258	3,608,436	1,326,822
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式			
	(2) 債券 国債・地方債 等 社債 その他	299,853	299,880	27
	(3) その他	534,951	587,088	52,136
小計		834,804	886,969	52,164

合計		5,770,063	4,495,405	1,274,658
----	--	-----------	-----------	-----------

(注)非上場株式(貸借対照表計上額 549,100千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(平成26年3月31日)

(単位:千円)

区分	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,950,920	618,311	1,332,608
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他	499,975	499,972	2
	(3) その他	619,622	561,226	58,395
	小計	3,070,517	1,679,510	1,391,006
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式			
	(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他	599,970	599,971	1
	(3) その他	450,518	507,124	56,606
	小計	1,050,488	1,107,096	56,607
合計		4,121,005	2,786,606	1,334,399

(注)非上場株式(貸借対照表計上額 581,000千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 2. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

(単位:千円)

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1) 株式	84,630	54,630	
(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
(3) その他			
合計	84,630	54,630	

当事業年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(単位:千円)

種類	売却額	売却益の 合計額	売却損の 合計額
(1) 株式			
(2) 債券 国債・地方債等 社債 その他			
(3) その他	19,804	121	
合計	19,804	121	

## (デリバティブ取引関係)

当社は、デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

## (退職給付関係)

前事業年度(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社の退職給付制度は、確定拠出年金制度(証券総合型DC岡三プラン)、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度から構成されております。

## 2. 退職給付債務に関する事項

(1) 退職給付債務	429,752	千円
(2) 年金資産	205,027	
(3) 未積立退職給付債務(1)+(2)	224,725	
(4) 未認識数理計算上の差異	29,011	
(5) 貸借対照表計上額純増額(3)+(4)	253,736	
(6) 退職給付引当金(5)	253,736	

## 3. 退職給付費用に関する事項

(1) 勤務費用	40,010	千円
(2) 利息費用	4,812	
(3) 原則法への変更による費用処理額	87,114	
(4) 期待運用収益	616	
(5) 数理計算上の差異の費用処理額	10,118	
(6) その他	10,825	
(7) 退職給付費用	152,263	

(注) 「(6) その他」は確定拠出年金への掛金支払額であります。



## 4.退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

## (1)退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

## (2)割引率

0.99%

## (3)期待運用収益率

0.5%

## (4)数理計算上の差異の処理年数

各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

当事業年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

採用している退職給付制度の概要

当社の退職給付制度は、確定拠出年金制度（証券総合型DC岡三プラン）、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度から構成されております。

## 2.確定給付制度

## (1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	429,752	千円
勤務費用	41,395	
利息費用	4,254	
数理計算上の差異の発生額	5,010	
退職給付の支払額	31,013	
退職給付債務の期末残高	449,398	

## (2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	205,027	千円
期待運用収益	1,025	
数理計算上の差異の発生額	25,773	
事業主からの拠出額	71,191	
退職給付の支払額	15,186	
年金資産の期末残高	236,284	

## (3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

積立型制度の退職給付債務	225,269	千円
年金資産	236,284	
	11,015	
非積立型制度の退職給付債務	224,129	
未積立退職給付債務	213,113	
未認識数理計算上の差異	4,722	
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	208,391	
退職給付引当金	208,391	
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	208,391	

## (4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	41,395	千円
利息費用	4,254	
期待運用収益	1,025	
数理計算上の差異の費用処理額	2,950	
確定給付制度に係る退職給付費用	41,674	

## (5) 年金資産に関する事項

## 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

株式	41.5	%
一般勘定	35.9	
債券	20.3	
その他	2.3	
合計	100.0	

## 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率は、保有する年金資産のポートフォリオ、過去の運用実績、運用方針、及び市場の動向等を考慮し設定しております。

## (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

割引率	0.64%
長期期待運用収益率	0.50%

## 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、13,069千円であります。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	90,076 千円	73,979 千円
役員退職慰労引当金	10,596 "	12,946 "
ゴルフ会員権評価損	3,231 "	2,131 "
貸倒引当金	6,216 "	5,151 "
その他有価証券評価差額金	19,211 "	20,095 "
投資有価証券評価損	3,002 "	3,002 "
未払広告宣伝費	42,193 "	31,522 "
資産除去債務	11,422 "	11,618 "
未払事業税	13,402	29,942
その他	10,922 "	10,925 "
繰延税金資産の合計	210,276 "	201,314 "
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	471,745 "	493,807 "
未収配当金		19,682 "
その他	7,770 "	6,675 "
繰延税金負債の合計	479,516 "	520,165 "
繰延税金資産(負債)の純額	269,239 "	318,850 "

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率 (調整)	38.0%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.9	間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.4	
住民税均等割等	0.4	
その他	0.6	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	40.5	

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の38.0%から35.5%に変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は3,370千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が3,370千円、その他有価証券評価差額金が0千円増加しております。

## (資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

## 1. 当該資産除去債務の概要

本店の建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

## 2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年～31年と見積り、割引率は1.404%～2.290%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

## 3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)		当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)	
期首残高	31,632	千円	32,175	千円
時の経過による調整額	543	"	553	"
期末残高	32,175	千円	32,728	千円

## (セグメント情報等)

## 1. セグメント情報

## (1) 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は「投資信託部門」及び「投資顧問部門」ごとに、経営戦略を立案・決定し、経営資源の配分及び業績の評価を行っております。

なお、「投資顧問部門」のセグメントの売上高、利益又は損失の金額及び資産の額がいずれも事業セグメントの合計額の10%未満でありますので、報告セグメントは「投資信託部門」のみであります。

報告セグメントである「投資信託部門」では投資信託の運用、商品開発等を行っております。

す。

報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法  
報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(3) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）  
報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当事業年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）  
報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

(4) 報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）  
前事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）  
報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

当事業年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）  
報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

## 2. 関連情報

前事業年度（自平成24年4月1日 至平成25年3月31日）

### (1) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

### (2) 地域ごとの情報

#### 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

### (3) 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当事業年度（自平成25年4月1日 至平成26年3月31日）

### (1) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

### (2) 地域ごとの情報

#### 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

#### 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

### (3) 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

### 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

該当事項はありません。

### 4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

該当事項はありません。

### 5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

#### 1. 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

前事業年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

#### 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
同一の親会社を持つ会社	岡三証券株式会社	東京都中央区	5,000,000	証券業	被所有 直接 2.30%	当社ファンドの募集取扱	支払手数料の支払 (注2)	3,109,435	未払手数料	201,400

(注) 1. 上記の取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針

過去の取引条件及びファンドの商品性を勘案して決定しております。

当事業年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

#### 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
同一の親会社を持つ会社	岡三証券株式会社	東京都中央区	5,000,000	証券業	被所有 直接 2.30%	当社ファンドの募集取扱	支払手数料の支払 (注2)	3,709,820	未払手数料	338,185

(注) 1. 上記の取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針

過去の取引条件及びファンドの商品性を勘案して決定しております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

### (1) 親会社情報

株式会社岡三証券グループ（東京証券取引所に上場）

### (2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

### (1株当たり情報)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	14,688円17銭	15,796円99銭

1株当たり当期純利益金額	453円49銭	1,102円07銭
--------------	---------	-----------

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当事業年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
当期純利益金額	374,132千円	909,213千円
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る当期純利益	374,132千円	909,213千円
普通株式の期中平均株式数	825,000株	825,000株

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
純資産の部の合計額	12,117,745千円	13,032,522千円
純資産の部から控除する合計額		
普通株式に係る期末の純資産額	12,117,745千円	13,032,522千円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の 普通株式の数	825,000株	825,000株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

中間財務諸表

(1) [中間貸借対照表]

(単位：千円)

当中間会計期間 (平成26年9月30日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	8,666,940
有価証券	1,756,395
未収委託者報酬	1,116,908
未収運用受託報酬	10,303
未収投資助言報酬	32,954
繰延税金資産	32,205
その他の流動資産	56,935
流動資産合計	11,672,643
固定資産	
有形固定資産	137,153
無形固定資産	9,270
投資その他の資産	3,356,826
投資有価証券	3,200,829
その他	170,506
貸倒引当金	14,510
固定資産合計	3,503,250
資産合計	15,175,893

（単位：千円）

当中間会計期間	
（平成26年9月30日）	
負債の部	
流動負債	
預り金	11,985
前受運用受託報酬	3,552
未払金	640,810
未払収益分配金	35
未払償還金	3,795
未払手数料	549,076
その他未払金	87,902
賞与引当金	19,412
未払法人税等	249,617
その他流動負債	2 303,023
流動負債合計	1,228,400
固定負債	
退職給付引当金	208,899
役員退職慰労引当金	23,720
繰延税金負債	301,620
資産除去債務	33,010
固定負債合計	567,249
負債合計	1,795,649
純資産の部	
株主資本	
資本金	1,000,000
資本剰余金	
資本準備金	566,500
資本剰余金合計	566,500
利益剰余金	
利益準備金	179,830
その他利益剰余金	
別途積立金	5,718,662
繰越利益剰余金	5,202,049
利益剰余金合計	11,100,541
株主資本合計	12,667,041
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	713,202
評価・換算差額等合計	713,202
純資産合計	13,380,243
負債・純資産合計	15,175,893

## (2) [中間損益計算書]

（単位：千円）

当中間会計期間	
（自 平成26年4月1日	
至 平成26年9月30日）	
営業収益	
委託者報酬	6,513,054

運用受託報酬		19,476
投資助言報酬		17,196
営業収益合計		6,549,727
営業費用		4,606,909
一般管理費		1,150,243
営業利益		792,575
営業外収益	1	21,863
営業外費用		184
経常利益		814,253
特別利益	2	22,389
特別損失	3	13,374
税引前中間純利益		823,268
法人税、住民税及び事業税		255,524
法人税等調整額		31,578
法人税等合計		287,102
中間純利益		536,166

## (3) [中間株主資本等変動計算書]

当中間会計期間（自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本							評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額 金	評価・ 換算差額 等合計		
		資本準備 金	資本剰余 金合計	利益準備 金	その他利益剰余金 別途 積立金	繰越利益 剰余金					利益剰余金 合計
当期首残高	1,000,000	566,500	566,500	179,830	5,718,662	4,706,843	10,605,335	12,171,835	860,687	860,687	13,032,522
会計方針の変更による累積的影響額						290	290	290			290
会計方針の変更を反映した当期首残高	1,000,000	566,500	566,500	179,830	5,718,662	4,707,133	10,605,625	12,172,125	860,687	860,687	13,032,813
当中間期変動額											
剰余金の配当						41,250	41,250	41,250			41,250
中間純利益						536,166	536,166	536,166			536,166
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）									147,485	147,485	147,485
当中間期変動額合計						494,916	494,916	494,916	147,485	147,485	347,430
当中間期末残高	1,000,000	566,500	566,500	179,830	5,718,662	5,202,049	11,100,541	12,667,041	713,202	713,202	13,380,243

## 重要な会計方針

## 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定）



## 時価のないもの

総平均法による原価法

## 2. 固定資産の減価償却の方法

## (1) 有形固定資産

定率法により償却しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 15年

器具備品 4～15年

## (2) 無形固定資産

定額法により償却しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（3～5年）に基づく定額法により償却しております。

## 3. 引当金の計上基準

## (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

## (2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、当社所定の計算方法による支給見込額の当中間期負担額を計上しております。

## (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

## (4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、当社内規に基づく中間期末要支給見積額を計上しております。

## 4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## 会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当中間会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当中間会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当中間会計期間の期首の退職給付引当金が450千円減少し、利益剰余金が290千円増加しております。また、当中間会計期間の営業利益、経常利益及び税引前中間純利益に与える影響は軽微であります。

なお、当中間会計期間の1株当たり純資産額は0円35銭増加しております。また、1株当たり中間純利益金額に与える影響額は軽微であります。

## 注記事項

(中間貸借対照表関係)

## 1 有形固定資産の減価償却累計額

	当中間会計期間 (平成26年9月30日現在)
建物	57,182千円
器具備品	148,776 "
計	205,959 "

## 2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、流動負債の「その他流動負債」に含めて表示しております。

## (中間損益計算書関係)

## 1 営業外収益の主要項目は、次のとおりであります。

	当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
受取配当金	19,943千円
受取利息	613 "
有価証券利息	322 "

## 2 特別利益の主要項目は、次のとおりであります。

	当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
投資有価証券売却益	22,389千円

## 3 特別損失の主要項目は、次のとおりであります。

	当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
投資有価証券売却損	13,374千円

## 4 減価償却実施額は、次のとおりであります。

	当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
有形固定資産	13,025千円
無形固定資産	694 "

## (中間株主資本等変動計算書関係)

当中間会計期間（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	当中間会計期間増加	当中間会計期間減少	当中間会計期間末
普通株式（株）	825,000			825,000

## 2. 剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月24日 定時株主総会	普通株式	41,250	50	平成26年3月31日	平成26年6月25日

## (金融商品関係)

当中間会計期間(平成26年9月30日)

金融商品の時価等に関する事項

平成26年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注2)参照)。

(単位:千円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	8,666,940	8,666,940	
(2)有価証券	1,756,395	1,756,395	
(3)未収委託者報酬	1,116,908	1,116,908	
(4)投資有価証券	2,619,829	2,619,829	
(5)未払金(未払手数料)	549,076	549,076	
(6)未払法人税等	249,617	249,617	

## (注1)金融商品の時価の算定方法

(1)現金及び預金、(3)未収委託者報酬、(5)未払金(未払手数料)、(6)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2)有価証券、(4)投資有価証券、

これらの時価について、上場株式は取引所の価格、債券は取引所の価格又は日本証券業協会が公表する価格等、投資信託は公表されている基準価額等によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

## (注2)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の中間貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	当中間会計期間 (平成26年9月30日)
非上場株式	581,000

非上場株式については、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4)投資有価証券」には含めておりません。

## (有価証券関係)

## 1. その他有価証券

当中間会計期間(平成26年9月30日)

(単位:千円)

区分	種類	中間貸借 対照表 計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	1,694,220	618,311	1,075,908
	(2)債券 国債・地方債等 社債	1,699,971	1,699,947	23

	その他 (3) その他	735,291	623,726	111,564
小計		4,129,482	2,941,985	1,187,497
中間貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式 (2) 債券 国債・地方債等 社債 その他 (3) その他	246,742	328,500	81,757
小計		246,742	328,500	81,757
合計		4,376,224	3,270,485	1,105,739

(注) 非上場株式（中間貸借対照表計上額 581,000千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

#### (デリバティブ取引関係)

当中間会計期間（平成26年9月30日）

当社は、デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

#### (資産除去債務関係)

資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の総額の増減

	当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
期首残高	32,728 千円
時の経過による調整額	281 "
当中間会計期間末残高	33,010 千円

#### (セグメント情報等)

##### 1. セグメント情報

当中間会計期間（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）

当社は「投資信託部門」及び「投資顧問部門」ごとに、経営戦略を立案・決定し、経営資源の配分及び業績の評価を行っております。

なお「投資顧問部門」のセグメントの営業収益、利益又は損失の金額及び資産の額がいずれも事業セグメントの合計額の10%未満でありますので、報告セグメントは「投資信託部門」のみであります。報告セグメントである「投資信託部門」では投資信託の運用、商品開発等を行っております。報告セグメントが1つであり、開示情報としての重要性が乏しいため、セグメント情報の記載を省略しております。

##### 2. 関連情報

当中間会計期間（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）

###### (1) 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

###### (2) 地域ごとの情報

###### 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

###### 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるた

め、記載を省略しております。

(3) 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

当中間会計期間（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）

該当事項はありません。

4. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報

当中間会計期間（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）

該当事項はありません。

5. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報

当中間会計期間（自平成26年4月1日 至平成26年9月30日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	当中間会計期間 (平成26年9月30日)
(1) 1株当たり純資産額	16,218円47銭
(算定上の基礎)	
純資産の部の合計額(千円)	13,380,243
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	
普通株式に係る中間期末(期末)の純資産額(千円)	13,380,243
普通株式の発行済株式数(株)	825,000
1株当たり純資産額の算定に用いられた 中間期末(期末)の普通株式の数(株)	825,000

	当中間会計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
(2) 1株当たり中間純利益金額	649円89銭
(算定上の基礎)	
中間純利益金額(千円)	536,166
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る中間純利益金額(千円)	536,166
普通株式の期中平均株式数(株)	825,000

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式は存在しないため、記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。）。

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと（投資者の保護に欠け、若

しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。 )。

通常の取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下において同じ。)又は子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託会社の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記に掲げるもののほか、委託会社の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

## 5【その他】

### (1) 定款の変更等

委託会社の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

委託会社は、事業の全部又は一部を譲渡することがあります。

委託会社は、分割により事業の全部又は一部を承継させることがあります。

### (2) 訴訟事件その他の重要事項

該当事項はありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

### 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

#### (1) 「受託会社」

三井住友信託銀行株式会社

資本金の額

平成26年3月末日現在、342,037百万円

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を営んでいます。

#### (2) 「販売会社」

香川証券株式会社

資本金の額

平成26年3月末日現在、555百万円

事業の内容

「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。

株式会社 百十四銀行

**資本金の額**

平成26年3月末日現在、37,322百万円

**事業の内容**

銀行法に基づき銀行業を営んでいます。

**2【関係業務の概要】**

(1)「受託会社」は、主に以下の業務を行います。

投資信託財産の保管、管理及び計算

委託会社の指図に基づく投資信託財産の処分

(2)「販売会社」は、主に以下の業務を行います。

受益権の募集の取扱い

収益分配金の再投資

収益分配金、償還金及び解約金の支払いの取扱い

投資信託説明書（交付目論見書）、投資信託説明書（請求目論見書）、運用報告書の交付の取扱い

解約請求の受付、買取請求の受付・実行

**3【資本関係】**

（持株比率5.0%以上を記載します。）

該当事項はありません。

**第3【参考情報】**

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

提出年月日	提出書類
平成26年 5月21日	臨時報告書
平成26年 7月22日	臨時報告書
平成26年 8月 8日	有価証券届出書
平成26年 8月 8日	有価証券報告書
平成26年 9月24日	臨時報告書

## 独立監査人の監査報告書

平成26年6月24日

岡三アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員 公認会計士 鈴木基仁 印  
業務執行社員指定社員 公認会計士 宝金正典 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている岡三アセットマネジメント株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第50期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、岡三アセットマネジメント株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

平成27年 1月 8日

岡三アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

東 陽 監 査 法 人

指定社員 公認会計士 助川正文 印  
業務執行社員指定社員 公認会計士 宝金正典 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている「香川県応援ファンド」の平成26年5月13日から平成26年11月10日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、「香川県応援ファンド」の平成26年11月10日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

岡三アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注)1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の中間監査報告書

平成26年11月20日

岡三アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

東陽監査法人

指定社員 公認会計士 鈴木基仁 印  
業務執行社員指定社員 公認会計士 宝金正典 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている岡三アセットマネジメント株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの第51期事業年度の中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

### 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、岡三アセットマネジメント株式会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1. 上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。  
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。